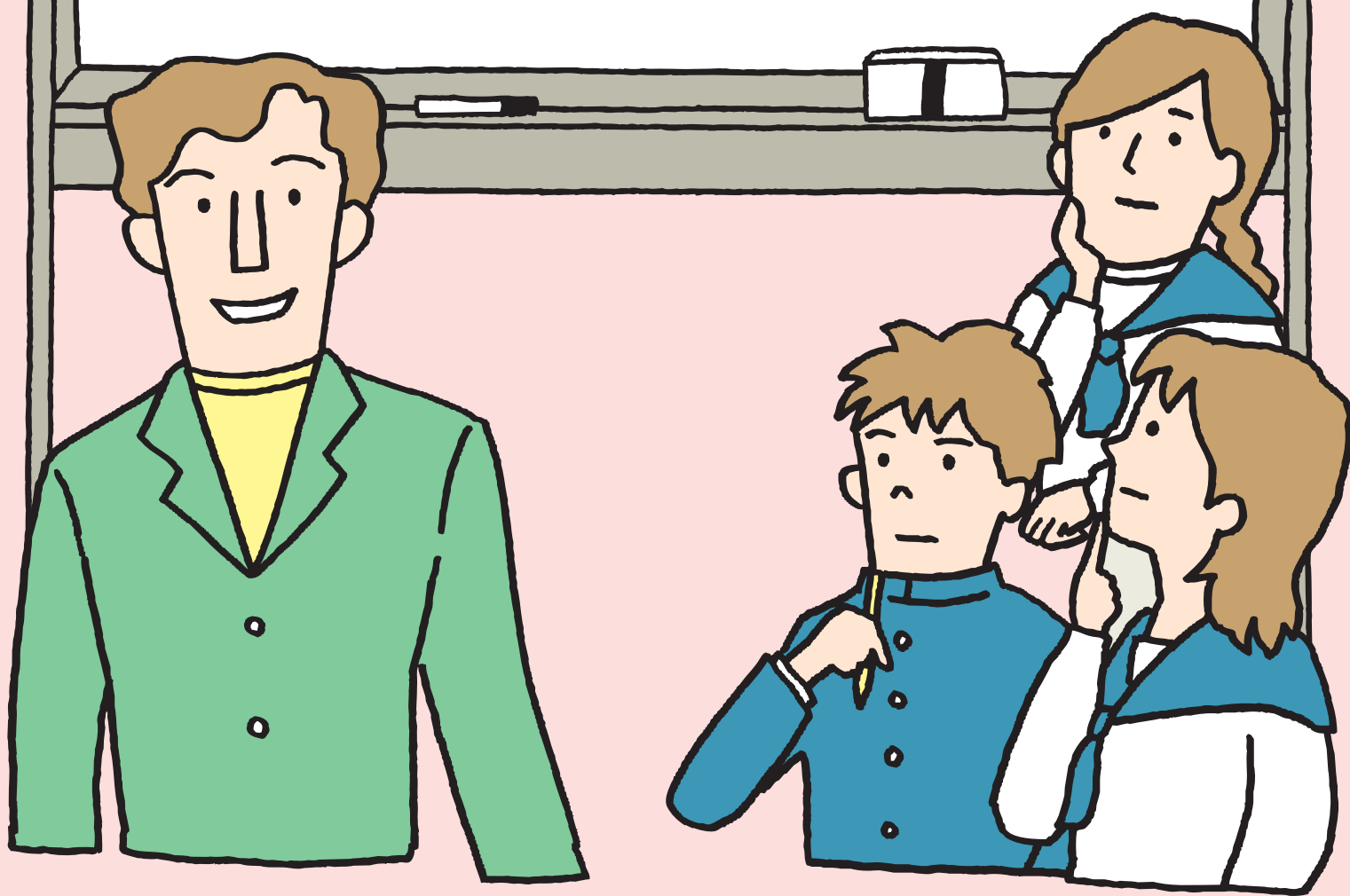


# 島根県 学校における がん教育の手引



令和4年2月

島根県教育委員会

## はじめに

現在、日本人の2人に1人は、一生のうちに何らかのがんにかかることが推計されております。命に関わる病気ではありますが、医学の急速な進歩により、早期に発見し適切な治療をすれば完治する病気になってきました。

一方で、未だ「がんは不治の病である」などといった、がんに関する誤った認識が根深くあり、必要以上に不安や恐怖を感じたり、がん患者やその家族への偏見につながったりすることも残念ながらあります。

このことから学校教育活動全体で健康教育の一環として「がん教育」を推進することは、児童生徒が生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成する上で非常に重要であると考えております。

島根県教育委員会では、学校におけるがん教育を推進するため、令和元年度より文部科学省の委託事業である「がん教育総合支援事業」を活用して、がん教育推進協議会を設置し協議を重ねるとともに、モデル校等を指定し、実践研究を進めていただきました。令和元年度末より新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し、感染症対策を行いながらも、子どもたちの学びの保障をしていくという、大変難しい状況の中での実践研究となりましたが、それぞれ工夫した取組を展開されております。

さらに、がん教育研修会の開催や教職員向け普及啓発リーフレットを作成して各学校に配付するなど、県内の学校におけるがん教育の充実に向けた取組を行っており、その一環として本手引を作成しました。

各学校におかれましては、本手引を参考にし、全教職員の共通理解のもとに家庭や地域の専門機関等との連携を図りながら、各校の年間計画に位置付け、計画的かつ組織的に取組を推進していただくようお願いいたします。

終わりになりましたが、本手引の作成に当たり御協力をいただきました委員の皆様と貴重な資料を提供いただきました方々に、心から深く感謝申し上げます。

令和4年2月

島根県教育庁保健体育課  
課長 舟木 勝宏

# 目次

## 第1章 指導編

- 1 がん教育の必要性…………… P 1
- 2 がん教育の基本的な考え方…………… P 1
- 3 がん教育を実施する際に配慮すべき事項…………… P 8
- 4 外部講師を活用した「がん教育の授業」…………… P 11

## 第2章 実践編

### 1 中学校

- 出雲市立河南中学校…………… P 17
- 江津市立桜江中学校…………… P 22
- 出雲市立湖陵中学校…………… P 25

### 2 高等学校

- 島根県立松江農林高等学校…………… P 29
- 島根県立益田高等学校…………… P 34

## 第3章 資料編

- がんの学習アンケート(例)…………… P 39
- 島根県のがん登録(2017年)…………… P 40
- 県内相談窓口の一覧…………… P 44
- がん教育プログラム(文部科学省)…………… P 45
- 引用資料・参考資料…………… P 60



# 第 1 章 指導編

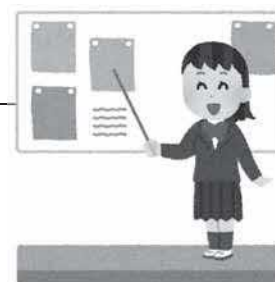
## 1 がん教育の必要性

現在、がんは日本人の死因の第1位であり、約3割の人が亡くなっています。また、日本人の2人に1人は、一生のうち何らかのがんにかかることが推計されています。つまり、がんは誰にでもかかる可能性のある身近な病気です。

そのため、学校における健康教育においてがんを取り上げた教育を推進することは、健康教育を推進する上で意義のあることであると考えられます。しかしながら、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であると指摘されており、学校におけるがん教育を通じて、児童生徒が健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることが求められています。

### がん対策に関する背景

国の対策	島根県の対策
<p><b>がん対策基本法(平成28年12月16日改正)</b> 第23条「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」</p> <p><b>第3期がん対策推進基本計画</b> 【2017年度～2022年度の6年間】 「国は、全国での実施状況を把握した上で、地域の実情に応じて、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める。」</p>	<p><b>島根県がん対策推進条例(平成29年改正)</b> 第14条「県は、市町村、教育関係者、保健医療福祉関係者、患者会等と連携し、児童、生徒等に対し、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに関する正しい知識及び病気とともに生きる人々に対する正しい理解を深めるための教育が行われるよう必要な施策を講ずるものとする。」</p> <p><b>第3期島根県がん対策推進計画</b> 【2018年度～2023年度の6年間】 ○子どもへのがん教育の円滑な実施 ○校内研修の実施 ○外部講師の養成</p>



## 2 がん教育の基本的な考え方

### がん教育の定義

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

学校におけるがん教育の在り方について(報告)より

## (1) 学校におけるがん教育の目標

### ① がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心を持ち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

### ② 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

## (2) がん教育の進め方の留意点

### ① 学校教育活動全体での推進

がん教育の実施に当たっては、がん教育が健康教育の一環として行われることから、学習指導要領総則1-2-(3)を踏まえ、保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切です。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが必要です。



### ② 発達の段階を踏まえた指導

がんに関する科学的根拠に基づいた理解については、中学校・高等学校において取り扱うことが望ましいと考えられます。その際、保健体育科で「生活習慣病などの予防」等が位置付いている中学校2年生や高等学校1年生を対象にまとめて時間を配置したり、全ての学年で時間を確保したりするなどの工夫が必要です。また、健康や命の大切さの認識については、小学校を含むそれぞれの校種で発達の段階を踏まえた内容での指導が考えられます。

### ③ 外部講師の参加・協力について

がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるに当たっては、地域や学校の実情に応じて、学校医やがんの専門医等の外部講師の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法の工夫を行うことが考えられます。また、がんを通して健康と命の大切さを考える教育を進めるに当たっては、がん経験者等の外部講師の参加・協力が効果的です。

また、各教科担任が実施する授業と、専門家等の外部講師の協力を得て実施する学校行事等を関連させて指導することで、より成果を上げることができます。

\*外部講師活用の内容については、11ページをご参照ください。

#### ④ がん教育で配慮が必要な事項について

\*児童生徒等への配慮事項については、8ページをご参照ください。



### (3) 学習指導要領における位置付け

## 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）抜粋

### 第2章 各教科 第7節 保健体育[保健分野]（抜粋）

#### 2 内容

- (1) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。
    - (イ) 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。
    - (ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。
    - (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。
    - (カ) 健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また、医薬品は、正しく使用すること。

#### 3 内容の取扱い

- (1) 内容の(1)のアの(イ)は第1学年、(1)のアの(ウ)及び(エ)は第2学年、(1)のアの(カ)は第3学年で取り扱うものとする。
- (3) 内容の(1)のアの(イ)及び(ウ)については、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くように配慮するとともに、必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことにも配慮するものとする。また、がんについても取り扱うものとする。

### 【中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 抜粋】

#### ア 知識

#### (ウ) 生活習慣病などの予防

##### ㊦ 生活習慣病の予防

生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることを、例えば、心臓病、脳血管疾患、歯周病などを適宜取り上げ理解できるようにする。

その際、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足、喫煙、過度の飲酒などの不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、やせや肥満などを引き起こしたり、また、心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解できるようにする。

生活習慣病を予防するには、適度な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることを理解できるようにする。

#### ① がんの予防

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

なお、⑦、①の内容と関連させて、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できることなどを取り上げ、疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。

### (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

#### ⑦ 喫煙と健康

喫煙については、たばこの煙の中にはニコチン、タール及び一酸化炭素などの有害物質が含まれていること、それらの作用により、毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、がんや心臓病など様々な疾病を起こしやすくなることを理解できるようにする。特に、未成年者の喫煙については、身体に大きな影響を及ぼし、ニコチンの作用などにより依存症になりやすいことを理解できるようにする。

### (カ) 個人の健康を守る社会の取組

健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取組とともに、社会の取組が有効であることを理解できるようにする。社会の取組としては、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として各機関が持つ機能を有効に利用する必要があることを理解できるようにする。

その際、住民の健康診断や健康相談などを適宜取り上げ、健康増進や疾病予防についての地域の保健活動についても理解できるようにする。

また、心身の状態が不調である場合は、できるだけ早く医療機関で受診することが重要であることを理解できるようにする。さらに、医薬品には、主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があり、正しく使用する必要があることについて理解できるようにする。





## 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）抜粋

### 高等学校学習指導要領 第2章 各教科 第6節 保健体育(抜粋)

#### 2 内容

(1) 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。

(4) 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康を支える環境づくりについて理解を深めること。

(ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。

#### 3 内容の取扱い

(1) 内容の(1)のアの(ウ)及び(4)のアの(イ)については、食育の観点を踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮するものとする。また、(1)のアの(ウ)については、がんについても取り扱うものとする。

### 【高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 抜粋】

#### ア 知識

##### (ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。

また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に

有効であること、また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

## (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

### ㊦ 喫煙、飲酒と健康

喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねることを理解できるようにする。その際、周囲の人々や胎児への影響などにも触れるようにする。

また、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることを理解できるようにする。その際、好奇心、自分自身を大切にす気持の低下、周囲の人々の行動、マスメディアの影響、ニコチンやエチルアルコールの薬理作用などが、喫煙や飲酒の開始や継続の要因となることにも適宜触れるようにする。

## (4) 健康を支える環境づくり

### (ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

#### ① 地域の保健・医療機関の活用

健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて理解できるようにする。

その際、心身の健康の保持増進にとって、豊かなスポーツライフの実現が重要であることから、生涯スポーツの実践を支える環境づくりやその活用についても触れるようにする。



## <参考>

### 小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）抜粋

#### 小学校学習指導要領 体育(抜粋)

##### G 保健

(3) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 病気の予防について理解すること。

(ウ) 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

## 【小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 抜粋】

### ア 知識

#### （ウ）生活行動が主な要因となって起こる病気の予防

生活行動が主な要因となって起こる病気として、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気、むし歯や歯ぐきの病気などを適宜取り上げ、その予防には、全身を使った運動を日常的に行うこと、糖分、脂肪分、塩分などを摂りすぎる偏った食事や間食を避けたり、口腔の衛生を保ったりすることなど、健康によい生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。

#### （エ）喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

⑦ 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。また、喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

## （4）がん教育の内容

がん教育において取り扱う内容例と各校種の学習指導要領（体育、保健体育）との関係

校種	小学校	中学校	高等学校
学習指導要領	体育 保健領域	保健体育 保健分野	保健体育 科目保健
内容例			
ア がんとは何か（がんの要因等）		◎	◎
イ がんの種類とその経過			◎
ウ 日本におけるがんの状況			◎
エ がんの予防	○	◎	◎
オ がんの早期発見・がん検診		○	◎
カ がんの治療法		○	○
キ がんの治療における緩和ケア			○
ク がん患者の「生活の質」			○
ケ がん患者への理解と共生			○

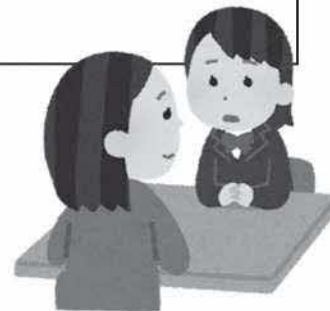
◎：学習指導要領の主な内容である「理解すること」に当たる部分

○：内容を補足して触れるようにする部分

### 3 がん教育を実施する際に配慮すべき事項

生涯のうち2人に1人ががんに罹患する時代です。がん教育を実施する際、学校では、以下のような児童生徒が教室にはいる可能性があるという前提で、配慮する必要があります。

- 小児がんの当事者、小児がんにかかったことがある児童生徒がいる場合
- 家族にがん患者がいる児童生徒や、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合
- 生活習慣が主な原因とならないがんもあり、特にこれらのがん患者が身近にいる場合
- がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒や、家族に該当患者がいたり、家族を亡くしたりした児童生徒がいる場合



#### 配慮例

- がん教育の内容や方法、実施時期を工夫する。
- 「がん教育を行うこと」や「心配があれば、いつでも相談できること」をあらかじめ保護者にたよりや通知文などで周知する。＊「通知文例」参照
- 本人に限定されるような内容に特化せず、事例を一般化するなどの工夫をする。
- 授業の冒頭で「悲しくなったり、聞いているのがつらくなったりした場合は、先生に伝えてください」等の言葉がけをする。
- 養護教諭等とともに指導をするなど複数体制にし、授業中や授業前後の観察をする。  
など

参考様式データは、  
保健体育課 HP に掲載 (P61 参照)

#### 通知文例【学級だより等の一部に掲載する場合】

##### がん教育を行います

日本において、がんは死因の第1位でありながら、がんのそのものの理解や、がん患者に対する認識を高める教育が不十分であることが指摘されています。この現状を受け、国や県では、学校における健康教育としてのがん教育の推進を進めています。

そこで、本学級においても、○月○日に、学級活動の時間に「がんについて考えよう～健康によりよく生きるために～」の授業を行います。この授業は、がんを身近な問題としてとらえ、がんの予防、早期発見の必要性などについて考えていくことを目的にしています。この授業を通して、ご家庭でも、がんの予防や命の大切さについて話し合うきっかけになっていただけると幸いです。ご理解とご協力のほどをよろしくお願いいたします。

なお、この授業を行うにあたり、ご質問やご心配なことがありましたら、担任または保健室までご連絡ください。(連絡先電話：〇〇—〇〇〇〇)

参考様式データは、  
保健体育課 HP に掲載 (P61 参照)

## 通知文例【学校から通知する場合】

<p>保護者の皆様</p> <p style="text-align: center;">がん教育の授業の実施について</p> <p>〇〇の候、保護者の皆様には、ますますご清祥のことと存じます。日頃より本校の教育活動につきまして、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。</p> <p>さて、近年、がんは、日本人の死亡原因として最も多く、生涯のうち国民の二人に一人は罹患すると推測されることから、国の重要な健康課題であります。また、がん対策基本法の下、政府が策定したがん対策基本計画においても、子どもに対し健康と命の大切さや自己管理、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育することを目指し、学校教育の中でがん教育を実施することとしています。</p> <p>こうした状況を踏まえ、本校でも以下のように、がん教育の授業を計画しています。一人一人が、限りある命を精一杯輝かせて、他者とかかわりあいながら生きている喜びを感得し、主体的に自他の健康で安全な生活を送ることができる生徒の育成を目指しています。</p> <p>つきましては、心配なことや配慮してほしいことがございましたら、いつでも担任または養護教諭（電話：〇〇—〇〇〇〇）までご連絡ください。よろしく願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <table border="0"> <tr> <td style="width: 10%;">1</td> <td style="width: 10%;">ねらい</td> <td>がんに関心をもつとともに、がんの予防や早期発見について正しい知識を身に付ける。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日 時</td> <td>〇月〇日～〇月〇日</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>授業者</td> <td>各担任</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>内 容</td> <td>・がんを正しく知ろう ・がんと向き合って生きていくために、自分ができることを考えよう。</td> </tr> </table>	1	ねらい	がんに関心をもつとともに、がんの予防や早期発見について正しい知識を身に付ける。	2	日 時	〇月〇日～〇月〇日	3	授業者	各担任	4	内 容	・がんを正しく知ろう ・がんと向き合って生きていくために、自分ができることを考えよう。	<p>〇〇年 〇月〇日</p> <p>〇〇〇学校 校長 〇〇 〇〇</p>
1	ねらい	がんに関心をもつとともに、がんの予防や早期発見について正しい知識を身に付ける。											
2	日 時	〇月〇日～〇月〇日											
3	授業者	各担任											
4	内 容	・がんを正しく知ろう ・がんと向き合って生きていくために、自分ができることを考えよう。											

☆☆

### 〈参考資料〉

#### 学校における「がん」に関する配慮すべき10の基本事項

- 1 がんは生活習慣がもととなっている病気（生活習慣病）とばかり強調することで、がんにかかった人が、乱れた暮らしをしていた悪い人という誤解を与えることがあります。  
がんを防ぐ生活習慣を守ることは、がんになりにくくすることで、がんを完全に防ぐことはできません。また、がんになった人が、悪い生活をしていたということでもありません。
- 2 家の人がたばこを吸っている場合に、たばこを止めるよう話すことを強く勧めると、家の人と児童が極端な力関係にある場合や、十分なコミュニケーションがとれない場合などに、児童生徒につらい思いをさせてしまうことがあります。
- 3 がんの要因のひとつに感染症がありますが、感染症でうつるということを話すことで、がんはうつるという誤解を与えてしまうことがあります。感染の話がなくても、病気は風邪のようにうつるものというイメージが持たれている場合もあります。  
ウイルスなどでうつるがんは、ごく一部の限られた種類のものです。

4 がんは遺伝子の異常により起きます。また、遺伝するがんもあることを話すことで、がんは遺伝するという誤解を与え、身内にがん経験者がいる場合に、過度の不安を与えてしまうことがあります。

遺伝するがんもありますが、ごく一部の限られた種類のものです。

5 がん検診の効果を強調しすぎると、がん検診でなんでも見付き、なんでも治るという誤解を与えることがあります。また、がんになった人はがん検診を受けなかった悪い人という誤解を与えることがあります。

がん検診が行われているがんは、胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの5つのがんに限られています。また、この5つのがんであっても、がんができた場所やタイミングによって、検診でも見つけられていない場合もあります。

6 「がんは不治の病である」、「がんは簡単に治せる」など極端な情報の一方のみを伝えると誤解を与える場合があります。

がんの種類や広がり具合によって、治りやすさが大きく違ってきます。早期がんであっても、再発の可能性が0ではないので、多くのがん経験者は再発の不安を感じています。

7 健康食品や民間療法でがんが治ったというような体験談をすると、自分の身近ながん経験者も使ったほうがよいと受け取ってしまうことがあります。

健康食品や民間療法でがんを治すことについて、科学的には確認されていません。

8 生存率の話をした時に、自分の身近ながん経験者に数値をそのまま当てはめて、悲しい思いを感じる場合があります。

生存率は、様々な患者さんの情報を集めたもので、一人ひとりの患者さんにそのままあてはまるものではありません。

9 インターネット、テレビ、本などで紹介されている情報は、正しいと鵜呑みしてしまうことがあります。

10 体験談で家族のサポートを強調しすぎると、十分にサポートできていないことがいけないと感じてしまう恐れがあります。

もし、がん経験者が近くにいる時には、あなたに何ができるかよく話し合っ、考えることが大切です。

出典：がん教育における配慮事項ガイドライン（令和2年2月）

一般社団法人 全国がん患者団体連合会

## 4 外部講師を活用した「がん教育の授業」

がん教育を進めるに当たっては、外部講師の参加・協力が効果的です。

外部講師としては、医療従事者、がん経験者等が考えられます。ここでは、学校において外部講師が実際にかん教育を実施するに当たり、留意すべき事項を示しています。



### (1) 外部講師を活用したがん教育の進め方の基本方針

#### ① 講師の専門性やこれまでの経験が十分に生かされるよう工夫する。

地域や学校の実態に応じて、学校医、がん専門医（「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」育成プラン、がん診療連携拠点病院等の活用を考慮）、がん患者やがん経験者等など、それぞれの専門性が十分生かせるような指導の工夫を行い、教員と十分な連携のもと外部講師を活用したがん教育を実施する。

#### ② 学校教育活動全体で健康教育の一環として行う。

保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。学級担任や教科担任、保健主事などが中心となって健康教育の一環として企画するものであり、必要に応じ、養護教諭とも連携する。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮する。なお、効果的な指導を行うためには、学校保健計画に位置付けるなどして計画的に実施することが望ましい。

#### ③ 発達段階を踏まえた指導を行う。

小学校では、主としてがんを通じて健康と命の大切さを育むことを主なねらいとする。中学校、高等学校では主として、科学的根拠に基づいた理解をすることを主なねらいとする。その際、各校種のねらいを踏まえ、発達段階を考慮し、外部講師を活用したがん教育を行うなどの工夫を行う。



### (2) 実施の手順と進め方

#### 外部講師を活用したがん教育を推進する際のポイント

- ① 学校が主体となって企画・運営を行う。
- ② 核となる教員や授業を担当する教員だけでなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- ③ 学校での取組内容を保護者や関係機関などに周知・共有することにより、連携体制を構築する。
- ④ 年度当初の職員会議等で、「学校保健計画」に基づき外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

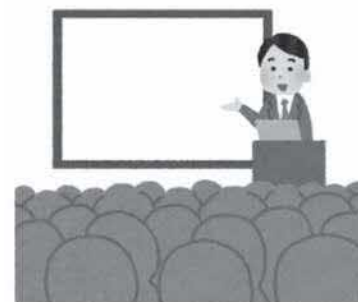
## 手順(例)

	学校内	外部講師との調整
①企画	<p>○保健主事、授業を担当する保健体育教諭、学級担任等を中心に核となる教員を決め、関係教職員と連携しつつ、外部講師を活用したがん教育を企画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなテーマで</li> <li>・いつ</li> <li>・誰を講師に</li> </ul> <p>*外部講師リストの活用</p>	<p>●外部講師を活用したがん教育の企画に合わせて、関係機関に講師の派遣を依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前打診 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考様式1</span></li> <li>・正式依頼状送付 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考様式2</span></li> <li>・打合せ日程調整</li> </ul>
②打合せ	<p>○外部講師を活用したがん教育の実施に向けて、教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。また、教科書やがん教育に関わるビデオ、パンフレットなどの資料を準備し、外部講師を活用したがん教育の講師予定者との打合せに備える。</p>	<p>●外部講師を活用したがん教育の講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細な日程</li> <li>・講師と学校の役割分担</li> <li>・準備品等</li> <li>・指導上の留意事項の確認</li> </ul>
③準備・事前指導	<p>○当日児童生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。</p> <p>○必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。</p>	<p>●資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。</p> <p>●講師と教員との役割分担についても確認する。</p>
④外部講師を活用したがん教育	<p>○ねらいの説明、講師の紹介等を行う。</p> <p>○がん教育を実施する。</p>	<p>●がん教育を実施する。</p>
⑤事後指導	<p>○関連教科と結びつけた指導を行う。</p> <p>○児童生徒からの質問、感想を集約、分析する。</p>	<p>●講師に感想を尋ねる。</p> <p>●児童生徒の疑問点、意見、感想を伝え、回答を得るとともに、指導上の課題、実施後の指導について話し合う。</p>
⑥評価まとめ	<p>○成果や課題について担当者と話し合い、教職員で共有するとともに、次年度に生かす。</p>	<p>●成果と課題について情報共有し、礼状を添える。</p>



## 外部講師との確認事項

- 児童生徒及び家庭や地域の実態
- 学校におけるがん教育の取組の状況
- 外部講師を依頼した理由、期待する内容、教育活動の中での位置付け
  - \*学習指導要領の内容についても共通理解しておく
- 事前打合せにおいて、学校でどこまで教えていて、何を話してほしいか共通認識しておく
- 学校側の責任者、連絡担当者、連絡方法



### (3) 実施の留意点

- ・各教科担任が実施する授業と、外部講師の協力を得て実施する学校行事等を関連させて指導することで教育効果が一層高まるようにする。
- ・児童生徒の発達段階に考慮した内容の指導を心がけるなど、学習指導上の留意点を事前に外部講師と共有する。また、授業計画の作成に当たっては、外部講師任せにするのではなく、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。
- ・教員と外部講師は、授業の事前や事後に打合せを行い、授業のねらいを確認し、教育効果を高める。
- ・児童生徒の家族にがん患者やがん経験者がいる場合には、がん患者やがん経験者による体験談は強い印象を与える可能性があることに留意する。

### (4) 外部講師リストの活用について

学校におけるがん教育に協力が得られる医療機関、医療従事者、がん患者、がん経験者の「島根県がん教育外部講師リスト」は、年度当初に発出されるので、参考にしてください。

外部講師リストには、講師への謝金・旅費の要否について記載してありますが、講師への謝金・旅費については、講師との間で事前の確認が必要となります。各学校で年間計画に位置付け、当初予算で予定しておくことも必要です。



#### 〈流れ〉

- ①学校は学部講師リストにより派遣依頼する講師を決定し、連絡先へ事前相談。(参考様式1)
- ②外部講師から学校へ派遣が可能かどうか回答。
- ③学校から正式な依頼文書を送付。(参考様式2)
- ④以後は、学校と外部講師で授業に向けて、適宜打合せ、実施、振り返りを行う。

参考様式データは、  
保健体育課 HP に掲載 (P61 参照)

参考様式 I

令和 年 月 日

がん教育の外部講師派遣に係る事前依頼書(団体用)

【依頼者情報】

学校名			担当者		
所在地	〒				
連絡先	TEL			FAX	
	e-mail				

下記のとおり、がん教育外部講師の派遣を依頼したいと考えていますので、対応の可否についてご回答いただきますようお願いいたします。

【がん教育の実施(案)】

実施日時	候補1	令和 年 月 日	時 分 ~	時 分
	候補2	令和 年 月 日	時 分 ~	時 分
	候補3	令和 年 月 日	時 分 ~	時 分
実施場所	<input type="checkbox"/> 体育館 ・ <input type="checkbox"/> 教室 ・ <input type="checkbox"/> その他( )			
対象	学年: 年生 人数: 名 (規模: <input type="checkbox"/> クラス <input type="checkbox"/> 学年 <input type="checkbox"/> 全校) ( <input type="checkbox"/> 保護者を含む ※全体で約 名)			
依頼テーマ・分野	<input type="checkbox"/> ①がんの基礎知識 <input type="checkbox"/> ②予防・検診 <input type="checkbox"/> ③緩和ケア <input type="checkbox"/> ④がん患者への理解と共生 <input type="checkbox"/> ⑤がん体験談 <input type="checkbox"/> ⑥その他( )			
学習目標				
希望職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 社会福祉士 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> がん患者・体験者 <input type="checkbox"/> がん遺族・家族 <input type="checkbox"/> その他( )			

以下の事項をチェック・ご記入の上、上記連絡先まで FAX ください

がん教育の外部講師派遣に係る回答

- 対応できません  
下記担当者が対応します

【回答者情報】

回答担当者	所属	氏名
連絡先	TEL	FAX
	e-mail	

【外部講師対応者情報】

職種	氏名
----	----

参考様式データは、  
保健体育課 HP に掲載 (P61 参照)

参考様式2-1

令和 年 月 日

(外部講師) 様

所属長  
校長名

がん教育の外部講師派遣について (依頼)

このたびは、がん教育の講師をご快諾いただき、ありがとうございました。  
つきましては、ご多用中恐縮ですが、学校におけるがん教育の充実のため、下記のとおりご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

記

- 1 日 時 令和○年○月○日 (○) ○時○分から○時○分まで
- 2 場 所 ○○学校  
(住所 )
- 3 内 容 教科、領域  
例) 保健体育科保健分野  
「健康な生活と病気の予防」
- 4 対象者 ○年生○名
- 5 その他
  - ・打合せについて
  - ・謝金、旅費について

事前打診の際に  
確認する。

〈担当者〉

所属校

担当名

電話

FAX

e-mail

参考様式データは、  
保健体育課 HP に掲載 (P61 参照)

参考様式2-2

令和 年 月 日

\*所属長に出す場合  
(所属所) 院長 様

所属長  
校長名

がん教育の外部講師派遣について (依頼)

学校におけるがん教育の充実のため、下記のとおり授業を行います。  
つきましては、貴職 に講師をお願いしたく存じますので、ご派遣く  
ださいますようお願いいたします。  
なお、ご本人あて依頼文を同封させていただきますのでお取り計らいをお願いいたしま  
す。

記

- 1 日 時 令和○年○月○日 (○) ○時○分から○時○分まで
- 2 場 所 ○○学校  
(住所 )
- 3 内 容 教科、領域  
例) 保健体育科保健分野  
「健康な生活と病気の予防」
- 4 対象者 ○年生○名
- 5 その他
  - ・打合せについて
  - ・謝金、旅費について

事前打診の際に  
確認する。

〈担当者〉  
所属校  
担当名  
電話  
FAX  
e-mail

## 第2章 実践編



記載されている学習指導案は、  
実践年度の学習指導要領によるものです。  
実践例は、生徒の実態に応じて、  
各学校での指導の参考としてください。

## 〈出雲市立河南中学校の実践〉

テーマ:がんについての正しい知識を身につけ、命を大切にする心を育む  
「外部講師を活用した講演会」と「保健体育科(保健分野)での授業」で実践

### 外部講師を活用したがん教育

1 対象学年 全学年の生徒(PTA教育講演会)

2 外部講師 NPO 法人がんサポートかごしま  
理事長 三好 綾 氏  
演題「がんとともに生きる」

3 外部講師との事前打合せポイント

- ・事前アンケートからわかるがんについての認識、生徒の実態を外部講師と情報共有する。
- ・外部講師に取組テーマや講演会のねらいを伝える。
- ・講演内容や演題を確認する。
- ・時間配分、準備物等の確認をする。



4 講演会の様子

「がん」という病気を通して、命の大切さを学ぶ貴重な機会となった。前半は、辛い実体験から講師が感じたことや考えたこと、出会いによって講師自身が救われ、希望をもって生きていくことができたという内容の話であった。後半は、現在「がんサポート」として活動している中から『命をつなぐ』というテーマで話をされた。どの内容にも強いメッセージがあり、がん体験者である講師の前向きな姿を目の当たりにして、生徒からは「勇気が湧いてきた」、「生きることの意義を考えることができた」、「周囲の人たちをもっと大切にしていこう」など、明るい展望をもっている感想が多く見られた。感じ方や文章表現は生徒によって異なっていたが、間違いなく生徒の心が動いた1時間であったと感じる。

#### 【生徒の感想】

私は三好さんのお話を聞いて「なるほど」と思ったことがありました。それは、がんと生きる三か条の1つ「どうせやるなら楽しくね」です。私は三好さんのお話を聞くまでは、自分の嫌なことは「やりたくないなあ、早く終わらないかなあ、など」思いながらやっていました。しかし、これからは、「楽しく」を意識してがんばってみようと思います。そして、今、自分が生きていることに感謝して、日々を大切に過ごしていきます。誰かが生きたかった日、バトンタッチをしてくださった大事な一日を、周りの人を大事にし、自分の好きなところが発見できる、そんな日々を送っていきたくて思いました。本当に貴重なお話が聞けて良かったし、がんに対する考え方、命の大切さ、今自分が生きている尊さなどについて、あらためて向き合えることができました。

T1 保健体育科担当教員

T2 養護教諭

(1) 単元名

「健康な生活と疾病の予防」イ 生活行動・生活習慣と健康

(2) 本時の目標

・課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとする。

【関心・意欲・態度】

・がんの発生要因とその予防について理解することができる。【知識・理解】

(3) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	配慮事項(・) 支援(○)		評価基準・ 評価方法
		T1	T2	
導入 5分	<p>1 教育講演会の内容を振り返る。</p> <p>2 Aさんの経験(身近ながん患者)をパワーポイントで見て、気づいたことや気になったことを話し合う。 &lt;予想される反応&gt; ・さまざまな部位で発症する。 ・身近にがんになる人がたくさんいる。</p> <p>3 本時の学習内容を確認する。</p>	<p>・がんは身近な病気であり、体の全部位で起こりうるものであることを伝え、早いうちから学習する必要があることを理解できるようにする。</p>		
	<p>がんについて正しい知識を身につけ、がん予防について私たちができることを考えよう。</p>			





	<p>たちができること」を協議し提案書を作成する。〔8分〕                  (ホワイトボードに記入する)</p> <p>④各班で考えた提案書の内容をクラスで共有する。〔12分〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じテーマを話し合った二班のうち、一班が発表し、もう一班は補足・違う意見があれば発表する。</li> </ul> <p>(モニター画面の資料で、分析結果をもとに根拠を示しながら説明する)</p>	<p>ポイントを確認、説明する。</p> <p>○全てが出揃ったところで、提案書に共通点がないか考えられるようにする。</p>	<p>○必要に応じて補足説明する。</p>	
	<p>〈気づかせたい・理解させたい内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・罹患(がんにかかる)率は、加齢にともなって上がり、男性が多い。その理由は、喫煙(肺がん)や過度の飲酒(肝臓がん)など、危険を高める生活習慣が男性に多いためである。また、20～50代では女性の方が多く、乳がん・子宮頸がんがこの世代に多いためである。</li> <li>・がんは症状が出にくい病気のため、早期に発見するためには、症状が出なくても検診を受けることが不可欠である。しかし、受診率は50%に達していないという現状がある。</li> <li>・早期発見によって、生存率が高まる。</li> <li>・がんになるリスクを減らすための工夫として、「喫煙をしない」「過度の飲酒をしない」「バランスの良い食事」「適度な運動による適正体重の維持」「定期的ながん検診」などがある。</li> <li>・自分たちにできることは、『望ましい生活習慣を送ること』『できるだけ早期発見に努めること』の2つであること。</li> </ul>			
<p>まとめ 10分</p>	<p>6 本時の学習を振り返りながら、未来の自分へ向けた「がん予防」のメッセージをワークシートに記入する。</p> <p>7 教師の話聞く。</p>	<p>○ワークシートの見直しをさせながら、自分の生活と結びつけて書けるように促す。</p> <p>・本時のまとめを行い、望ましい生活習慣と検診の必要性について再確認する。</p>	<p>◆がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p>	<p>「努力を要する」状況(C)と判断された生徒への手立て(支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章がなかなか書けない生徒には、がんの要因や発表のキーワードについて説明し、支援する。</li> </ul>

(4) ワークシート

**○未来の自分へ メッセージを送ろう!**

35年後（50歳）のあなたは、健康で輝く未来を生きていることでしょう。中学3年生の今、がんをはじめ、生活習慣病について学び、これからの生活習慣に気を配り過ごした結果です。どんなことに気をつけて生活をしていったのが想像して書いてみてください。

50歳まで健康で頑張ってきた自分をほめてあげましょう。また、その先の人生も健康でいられるようにアドバイスをしてあげましょう!

3年（ ）組 氏名（ ）

**「がん」についての学習**

【本時の課題】

**がんについて正しい知識を身につけ、がん予防について私たちができていることを考えよう**

○「がん」とはどのような病気か? ( ) に書こう。

- ・日本人における死因第 ( ) 位であり、今も増え続けている。
- ・がんになる人の割合は ( ) 人に一人であり、( ) 人に一人はがんが原因で亡くなっている。
- ・がんとは、細胞分裂の際にできる ( ) な細胞が際限なく増えることである。
- ・がんにかかる原因 第1位：男性は ( ) 、女性は ( ) である。
- ・がんは ( ) なりうる病気である。
- ・がんの原因は、①細菌・ウイルス ②よくない ( ) ③遺伝的原因 があるが、原因が分かっているものもある。
- ・がんになる危険性（リスク）を減らすには、
  - ①禁煙 ②節酒 ③バランスのよい食事 ④適度な運動 ⑤適正体重の維持
  - ⑥感染対策 ⑦検診 がある。

**○私たちができること（発表を聞いてまとめよう）**

≪ がんの罹患（がんにかかること） ≫	≪ 食生活 ≫
≪ 運動と適正体重 ≫	≪ がん検診 ≫

# 〈江津市立桜江中学校〉

テーマ:がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考える生徒の育成

- ・がん教育全体計画を作成し、各教科の学習内容を設定
- ・外部講師による講演会(学校保健委員会)を開催

## がん教育全体計画



## 外部講師を活用したがん教育

1 対象学年 全学年(学校保健委員会)

2 外部講師 島根県済生会江津総合病院

副院長(医学博士) 竹林 正孝 医師

演題「がんについて考えよう

～自分と大切な人のために～」

3 外部講師との事前打合せポイント

- ・事前アンケートで生徒の実態を把握し、講師と情報共有する。
- ・講演内容や配慮事項について確認する。
- ・当日の時間配分や準備物等を確認する。
- ・事前に学校で指導しておくべきことを確認する。
- ・外部講師に期待することを伝える。  
(教員では伝えきれない専門的な内容を依頼)



4 参考資料(事前アンケート)

**済生会江津総合病院からのアンケート**

副院長の竹林正孝です。10月9日(金)にみなさんに「がん」という病気についてお話に行きます。その前にちょっとだけ聞いてみたいことがあるのでよろしくお願いします。



①「がん」について知っていることや感じていること。(箇条書きでOK)


②がんのつらさや苦しみとはどんなものだと思いますか。

--

③もし自分の大切な人ががんになったら、あなたには何ができますか。

--



## 5 ワークシート

指  
導  
編

実  
践  
編  
1

実  
践  
編  
2

資  
料  
編

がん教育講演会（学校保健委員会） 10月9日（金）

演題 「がんについて考えよう ～自分と大切な人のために～」

講師 島根県済生会江津総合病院 竹林正孝 先生（医学博士）

講演会でメモしておきたいことがあったら使ってください。

MEMO



竹林先生の講演を聞いて（学校に帰ってから書きましょう）



感想や思ったこと、先生に聞いてみたいことなど

今日の学びを自分の言葉で表現しよう……（ ）の中に自分の言葉をいれる。

「がん」とは

（ ）。

（ ）年 生徒名（ ）

### 【講演会の感想】

今回のお話を聞いて、がんのことについて、より深く知ることができました。これから、もし周りの人ががんになったら、支えるヒントを思い出し、少しでも力になればいいと思います。健康に気をつけている人でもなってしまうことがある病気ということを知ったので、祖父母や両親などの身近な人に定期検診を受けるように言いたいです。

「がん」とは、（周りの人がなったら、少しでも力になることができる病気）

## 〈出雲市立湖陵中学校〉

「保健体育科の授業」と「外部講師を活用した授業」を中心とした実践  
～2年間を通したがん教育の実践～

### 指導計画

学年	時間	内容	目標(ねらい)	協力体制
4章 健康な生活と病気の予防 (5. 生活習慣病とその予防)				
2年	1	生活習慣病と その予防1	生活習慣になる要因について学習した内容をもとに、自分の生活習慣を振り返る。	
	2	生活習慣病と その予防2	現代と昔の死因を比べ、現代の生活や病気の違いについて理解する。	
	3	がんについて	がんに関するアンケートをもとにがんについての正しい知識を理解し、自分にできる予防方法を考える。	養護教諭(T2)
	4	がん教育講演会	普段からがん患者の治療に携わっている医師から、予防方法や治療法について学ぶ。	外部講師の活用 (医師)
3年	5	がん治療中の生活 について考える (学級活動)	2年次に学習した内容を振り返る。 がんの告知を受けた時の話を聞き、 がん告知から治るまでの生活について 想像することができる。	
	6	がん経験者の生き 方から学ぶ(道徳)	外部講師や周りとの意見交換を通して、 がん患者との関わりや、自他の健康と命の 大切さについて考えることができる。	外部講師の活用 (がん経験者)
	4章 健康な生活と病気の予防 (12. 保健・医療機関の利用)			
	7	保健・医療機関の 利用(保健体育)	保健所や保健センターの役割を理解し、 健康診断やがん検診など自分が受けられる サービスについて学ぶ。	

T1 保健体育科担当教員

T2 養護教諭

(1) 本時の目標

・資料を読み取り、学習した正しい知識をもとにがんの予防方法を考えることができる。

【思考・判断】

・がんの仕組みや予防方法について自分の言葉でまとめることができる。

【知識・理解】

(2) 本時の展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点(・)と支援(◎)
1 前時までの内容確認 ・生活習慣病とは？  2 写真を提示する。 【予想される生徒の反応】 芸能人の名前 歌手・俳優などの職種 共通点	◎ICTを活用する。  ・共通点を挙げるように伝える。 ◎わからない場合は近くの人と相談するよう伝える。
今日のためて:がんについて正しい知識を理解し、自分にできる予防方法を考える。	
3 がんの仕組みについて知る。  4 自分にできる予防方法を考える。 個人 → グループ → 全体 【予想される生徒の反応】 ・生活習慣を改善する。 (食事に気をつける・運動をする 睡眠時間をしっかりとる等) ・検診に行く。  5 振り返り 本時の内容を自分の言葉でまとめる。 個人 → ペア	・がんに関するアンケートや補助教材を活用し、正しい知識を理解させる。(T2) ・ワークシートへ記入させる。  ・学習した内容をもとに考えさせる。 ・ホワイトボードをグループに配布し、記入させる。 ・生活習慣の改善は具体的に挙げるようにする。 ◎意見がまとまっていないグループへ 机間指導  ・本時の学習内容を自分の言葉で、他者に伝えるようにまとめるよう指示する。 ◎書き出しに困っている生徒には、書き出しのヒントを示す。

授業者 学級担任

ゲストティーチャー 外部講師

1 対象学年 第3学年

2 外部講師 島根県がんピアサポーター 若狭 雅子 氏

3 外部講師との事前打合せポイント

- ・これまで学習したがん教育の内容、生徒の実態について情報共有する。
- ・外部講師の経験、思いや願い等を聞く。
- ・事前アンケートから分かるがんについての認識を情報共有する。
- ・事前アンケートをもとに作成した学習内容を説明する。
- ・意見交換をしながら授業の流れを決めていく。
- ・生徒から外部講師への質問の回答依頼をする。
- ・TTで実施する際の役割分担、時間配分等を確認する。



4 授業の実際

(1) 本時の目標

がんと向き合い治療した若狭さんの経験談から、生きる喜びや生きがいについて考え、互いに支え合いながら、物事を前向きに考えて生きようとする実践意欲を育てる。

(2) 本時の展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点(・)と支援(◎)
1 外部講師の紹介	◎めあて、発問等はパワーポイントでTVにうつす。
2 めあての提示 今日のめあて:若狭さんの生き方に触れ、自分を見つめ、「生きる」ことについて考えよう。	
3 「生きる」ってどういうこと?	・がん患者の生活を想像し考えた内容と比べてみる。(ワークシート②)
4 若狭さんが治療を受けていた時の話を聞く ・誰に1番に話したか ・困ったこと ・できなくなったこと ・こわかったこと 等	◎生徒から出た意見は復唱する。 ◎若狭さんへの質問は教員が行う。



<p>◎治療中の心の支えは何だろう？ (グループ→全体)</p> <p>◎自分がその“支え”になるとき、何ができるだろうか？ ・どんな言葉をかけるか。 ・どんなことをするか。(行動) (個人 → グループ → 全体)</p> <p>5 若狭さんの話を聞く ・治療中周りの人にしてもらって嬉しかったことは。</p> <p>・がんの治療を乗り越えた後で人生にどんな変化があったか。</p> <p>6 振り返り ・若狭さんの話を聞いて「生きる」ことについて自分の考えはどう変わったか書きましょう。</p> <p>7 まとめ ・若狭さんが伝えたいこと</p>	<p>・どうしてそのように考えたか、理由も言えるようにしておく。</p> <p>◎「自分にできることはない」という生徒には、他の生徒の考えから気づかせる。</p> <p>◎特別なことではなく、いつも通り接することも意味があることに気づかせる。</p> <p>◎若狭さんの話や友だちとの意見交換から、生きることについて考えたことをワークシート③に記入させる。</p>
---	--

### (3) ワークシート

がん教育ワークシート①

① がんの告知を受けたとき、若狭さんはどんな気持ちになった？

② がんの告知を受けた話を聞いて、若狭さんに聞いてみたいこと

3年2組 ( ) 番 名前 ( )

がん教育 ワークシート② ② みんなから出た「聞いてみたいこと」

質問	自分の考え
がんになったことを1番に話した人は	
がんになって1番つらかったこと	
がんになって困ったこと	
がんになってできなくなったこと	
がんになってこわかったこと	
がんの治療中、心の支えだったのは？	
がんになる前の生活と なった後の生活で変わったことは？	
周りの人ががんになったとき どんな言葉をかける？(声かけ)	
周りの人ががんになったとき どんなことをする？(行動)	

3年2組 ( ) 番 名前 ( )

がん教育ワークシート③

「 」 ことについて考えよう

2021.10.20 wed

授業メモ(自分の考えや仲間の意見で気になった言葉等、メモしよう)

振り返り


3年2組 ( ) 番 名前 ( )

## 〈島根県立松江農林高等学校〉

テーマ:がんについて正しい理解と共に支え合う社会について考える。

- ・保健体育科(科目保健)と総合学科福祉サービス系列 科目「介護福祉基礎」で実践
- ・外部講師を活用した授業の展開

### 第2学年 保健体育科(科目保健)指導案

令和元年度実践

#### (1) 単元名

「様々な保健活動や対策」(2) 生涯を通じる健康

#### (2) 本時の目標

- ・様々な保健活動や対策について、資料を見たり、読んだりして、課題の解決に向けて学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ・様々な保健活動や対策について、我が国の活動を踏まえ、資料等を見たり、読んだりしたことを基に、個人の課題を見つけたり、比較したりすることができるようにする。【思考・判断】

#### (3) 本時の展開

	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点(○)・評価の【観点】(☆)
はじめ 10分	1. 本時の学習内容を確認する。 2. がんの現状について理解する。 ・日本人の死因第1位が「がん」であることを確認する。 ・「がん」になっている人がどれ位いるのか、「がん」で死亡する人がどれ位いるのかを理解する。	○スライドを全員が見るように指導する。 ○積極的に発言ができる雰囲気を作る。 ○ワークシートに記入させる。
なか 30分	3. がんの予防について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">がんにならないためには何ができるだろうか？</div> ・発問について考え、ペアで意見交換する。 ・ペアでまとめた意見を発言する。 (予想される回答) ・生活習慣の見直し、新薬の開発、検診をきちんとする。 4. がん検診について理解する。 ・がん検診の受診率や5年生存率のグラフを見て日本の受診率が国際的に見て低いことや早期発見が大切であることを理解する。 5. がん検診の受診を高める方法を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">がん検診の受診率を高めるにはどうするか？</div> ・高める方法についてペアで考える。 (予想される回答) ・安く受けられる、定期検診の項目に入れる、簡単にできる方法を教える。	○机間支援をしながら、話し合いをさせる。 ☆ペアとの意見交換を意欲的にしている。 <div style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</div> ○ワークシートに発言のあった内容を記入させる。 ○比較できるようなグラフを準備する。 ○ワークシートに記入させる。 ○これまでの学習を思い出させる発問をする。 ☆解決策を考え仲間の考えと比較している。 <div style="text-align: right;">【思考・判断】</div>

まとめ 10分	<p>6. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の学習の振り返りを記入する。</li> <li>・大切な人ががん検診をすすめるスローガンを考える。</li> </ul> <p>7. がん検診の講演会について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は外部講師による講演会であることを理解する。</li> </ul>	<p>○机間支援をして全員に記入させる。 ☆スローガンを意欲的に考えている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>
------------	---	---

### 外部講師を活用したがん教育

1 対象学年 2学年

2 外部講師 島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室  
主任保健師 澄田 恵理 氏  
「がん検診の重要性について」



3 外部講師との事前打合せポイント

- ・事前アンケートで生徒の実態を把握し、講師と情報共有する。
  - ・授業のねらいを確認し、内容を相談する。
  - ・授業で使う教材(パワーポイント)の内容を確認する。
  - ・授業中の役割分担、時間配分等、授業の詳細を確認する。
- \*前時で行った保健体育科の授業を参観し、生徒の様子を観察する。

4 事前アンケート項目

- (1) がん検診を受けられる年齢になったら、あなたは検診を受けようと思いますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。
- ①受けようと思う ②どちらともいえない ③受けようと思わない
- (2) がんの検診はどこで受けられると思いますか。いくつ選んでもいいので数字に○をつけてください。
- ①病院や診療所 ②職場 ③松江市役所(保健福祉総合センター)  
④松江保健所 ⑤その他(書いてください)
- (3) がん検診はどのような人が受けるものだと思いますか。いくつ選んでもいいので数字に○をつけてください。
- ①健康な人 ②自覚症状がある人 ③医者から受けるようにすすめられた人  
④その他(書いてください)
- (4) 「がん検診」のことを何で見たり知ったりしましたか。いくつ選んでもいいので数字に○をつけてください。
- ①テレビ番組 ②テレビCM ③本 ④インターネット ⑤新聞  
⑥家族の話 ⑦学校での保健等の学習 ⑧病院のポスターやチラシ  
⑨市役所からのリーフレット ⑩その他(書いてください)

## 5 流れ

- 1 自己紹介(5分)
- 2 前回の授業(保健体育科)の振り返り(3分)
- 3 島根県のがんの現状(5分)
- 4 がん検診って何?(10分)
- 5 がんの検診の受診率を高めるために(17分)
- 6 まとめ(10分)

## 6 参考使用教材(抜粋)

### 自己紹介

#### 島根県の保健師 9年目

保健師とは・・・乳幼児から高齢者まで幅広い世代と関わり、健康増進や生活の質の向上をサポートする人

- 行政保健師(島根県庁、保健所、市町村保健センター等など)
- 産業保健師(企業など)
- その他(病院保健師、学校保健師など)

H29年度～現在  
島根県庁  
「がん対策推進業務」

H26年度～H28年度  
隠岐保健所  
「精神保健福祉業務」

H23年度～H25年度  
雲南保健所  
「難病患者支援業務」

### 日本人のがん検診の受診率は低い!

国	受診率 (%)
アメリカ	80.8
イギリス	75.3
オーストラリア	55.0
韓国	67.6
日本	41.0

国	受診率 (%)
アメリカ	84.5
イギリス	77.5
オーストラリア	57.3
韓国	66.7
日本	42.1

がん検診を受けない理由は何だろう? 受診率を高めるためには?

### 性別・年齢別がん罹患割合

20代～50代前半までは女性が多い  
(乳がんや子宮頸がんがこの世代に多いため)

【出典】島根県がん登録報告書H27年集計

がんと診断された人の約25%は働き盛り世代(20～64歳)

### がん検診受診率(H28年)

(人間ドック・職場のがん検診・市町村がん検診等を含む)  
目標値: がん検診受診率 50%以上

がん種別	島根 (%)	全国 (%)
胃がん	45.9	40.9
肺がん	53.8	46.2
大腸がん	46.6	41.4
子宮頸がん	40.5	42.3
乳がん	43.0	44.9

島根県のがん検診受診率全国順位(国民生活基礎調査)

がん種別	H28年順位
胃がん	9位
肺がん	10位
大腸がん	7位
子宮頸がん	32位
乳がん	32位

【出典】厚生労働省「国民生活基礎調査」

### 松江市が実施する住民検診を受ける方法

- ステップ1 いつどこで検診をするかを決める
- ステップ2 電話予約する
  - 集団検診の場合 → 乳がん検診の松江市へ電話予約  
その他は予約不要
  - 個別検診の場合 → 直接医療機関へ電話予約
- ステップ3 検診を受診する
  - ※ 受診券を持っていく

詳しくはこれ読んで

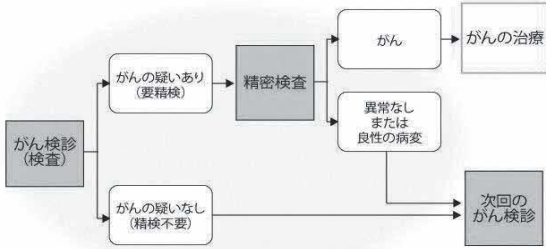
### 現在、日本では5つの「がん検診」が有効な検診として推奨されています

対象臓器	検診方法	対象者	受診間隔
胃	胃部エックス線または胃内視検査	50歳以上の男女	2年に1回
子宮頸部	子宮頸部の細胞診	20歳以上の女性	2年に1回
乳房	乳房エックス線検査(マンモグラフィー検査)	40歳以上の女性	2年に1回
肺	胸部エックス線検査と喀痰細胞診検査(喫煙者のみ)	40歳以上の男女	1年に1回
大腸	便潜血検査	40歳以上の男女	1年に1回

※ 胃部エックス線検査は当面の間40歳以上、1年に1回でも可

がん検診を受ける年齢  
「女性は20歳～」 「男性は40歳～」

### がん検診の流れ



☆精密検査は必ず受けましょう！  
☆結果がよくても、定期的にかん検診を受診しましょう！



### 市町村や県は、こんな取組をしています

広報・啓発

ホームページ 新聞記事 ポスター

テレビCM

島根県  
これほど身近ながんからの  
お知らせです。

しまねの  
がん対策

バスマスク

図書館やコンビニと連携したがん情報の発信

街頭キャンペーン

がん検診を受けましょう



がん検診の受診率上げるために  
みなさんならどんな対策を考える？

<条件>

- ・ターゲット
  - ①働き盛り世代の男性(40歳～60歳)
  - ②若い女性(20歳～30歳)

・お金、マンパワーの制限なし

若い感性できらりと  
光るアイデアを！！



### 最後に

自分の健康は自分で守る！  
→その1つに「がん検診の定期受診」がある

自分が学んだことは大切な人に教  
えてあげよう！

(がん検診に限らず) 分からない時や  
困った時は専門家に相談しよう！

## 第3学年 総合学科福祉サービス系列(福祉)指導案

令和元年度実践

1 単元名 「こころとからだの生活支援技術」

2 単元目標 生活支援技術に必要な基礎知識を身につけ、医療職との連携の重要性を理解できるようにする。

3 外部講師 看護師

4 指導計画

時	主な学習活動	関	思	知
1	・がんはどのような病気なのか ・我が国におけるがんの現状 ・がんの治療における緩和ケアとは	○		○
2	・がんの治療における緩和ケアについての実際 (外部講師による講演会)		○	
3	・がん患者の生活の質について ・がん患者への理解と共生(外部講師の講演会)	○		

## 5 授業の実際(2/3)

### (1) 本時の目標

がんの治療における緩和ケアについて、専門職としてどのように支援していけばよいか考える。

【思考・判断・表現】

### (2) 本時の展開

	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点(○)・評価の【観点】(☆)
導入 (5分)	1. 本時の学習内容を確認する。 2. 本時の講師について確認する。	○本時の学習内容と講師について説明をする。
展開 (30分)	3. がんの治療における緩和ケアについて理解する。 ・緩和ケアの内容 ・緩和ケアの進め方 ・患者や家族と接する際に心がけていることなど  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     専門職としてどのように支援することが大切か                 </div>	○緩和ケアについて前時に学んだことを思い出させる。 ○専門的に関わる立場としてどのように支援することが大切なのか理解するように意識させる。  ☆緩和ケアでは、専門職としてどのように支援していけばよいか考える。 【思考・判断・表現】
まとめ (15分)	4. 本時の学習を振り返る。 ・ワークシートに本時の学習の振り返りを記入する。 5. 質問・感想を発表する。 ・代表者は本時の質問・感想を発表する。	○机間支援をして全員に記入させる。  ○生徒の代表者に質問・感想を発表させる。

## 〈島根県立益田高等学校〉

テーマ:がんについて正しい理解を身につけ、共に生きる社会づくりを考える。  
「外部講師を活用した授業」と「保健体育科(科目保健)での授業」で実践

### 外部講師を活用したがん教育

1 対象学年 第1学年

2 外部講師 島根県がん対策推進協議会委員  
桑原 慎太郎 氏

3 外部講師との事前打合せポイント

- ・授業のねらいを確認する。
- ・生徒の事前アンケートから分かるがんについての認識を外部講師と情報共有する。
- ・授業展開の流れを伝える。  
(授業形式で行い、体験談を話してもらい流れで行いたいという学校のニーズ)
- ・授業で使う教材(スライド資料)作成にあたり、資料の提供を依頼する。
- ・教材(スライド資料)の内容を確認してもらい、微調整する。
- ・授業中の役割分担、時間配分等、授業の詳細を確認する。



4 参考資料教材(抜粋)

#### ねらい

「がん患者や周囲の人々の生活の質を保つためにできることを考える」

#### 本時の流れ

1. がんについて復習
2. 生活の違いについて
3. 今の生活で困ること
4. まとめ

#### Question. 1

「がんになる前と後で、  
生活に違いがあった」

○ or ×

#### Question. 2

どんな違いがあったか  
考えてみよう

ホワイトボードに書き出そう

がんを経験して

がんになったから終わり  
なのではなくて

がんになったからこそできること

復習  
生活の違い  
困ること  
まとめ

Question. 3

「今の生活の中で、人間関係  
で困ることがある。」

○ or ✕

復習  
生活の違い  
困ること  
まとめ

Question. 4

人間関係で困ることがないのは、  
なぜだろう

ホワイトボードに書き出そう

復習  
生活の違い  
困ること  
まとめ

第2学年 保健体育科(科目保健)指導案

令和2年度実践

(1) 単元名

「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」(2) 生涯を通じる健康

(2) 本時の目標

- ・地域の保健機関の活用について学習し、効果的な改善策の整理に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- ・地域の保健サービスの活用について、地域の現状から効果的な改善策を整理し、筋道を立ててそれらを説明することができる。(思考・判断)

(3) 本時の展開

	生徒の学習内容・活動	指導上の留意点・評価の観点(☆)
はじめ(5分)	1. 前時の学習内容を振り返る。 2. 本時の学習内容を確認する。 3. 前時に各班で検討した資料を基に、本時の活動ができるように準備をする。	・前時の学習内容を振り返り、本時の学習に結び付ける。 ・本時のねらいと流れを説明する。 ・次の活動ができるように、前時の資料等を準備させる。



なか(35分)	<p>4. がん検診のポスターを作成する。</p> <p>○前時の資料をもとに、ポスターのフォーマットにキャッチコピーやデータを記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の資料から、ポスターのキャッチコピーや説明データを話し合う。</li> <li>・益田市のポスターを示し、参考にさせる。</li> <li>・各班の活動が円滑に進んでいるか確認する。</li> </ul>
	<p>意欲的に意見交換をして、がん検診をすすめるポスターを作成しよう。</p>	
		<p>☆地域の保健機関の活用について学習し、効果的な改善策の整理に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度)</p>
	<p>作成したポスターを、筋道を立てて発表・説明しよう。</p>	
		<p>☆地域の保健サービスの活用について、地域の現状から効果的な改善策を整理し、筋道を立ててそれらを説明することができたか。 (思考・判断)</p>
	<p>5. がん検診のポスター発表</p> <p>○各班が作成したポスターを発表し、キャッチコピーやデータの説明をする。</p> <p>○各班1分で作成したポスターの発表をする。</p> <p>○各班の発表を聞いて、ワークシートにコメントを記入する。</p> <p>6. 益田市のがん検診の実施状況について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田市で行われているがん検診の実施状況や情報提供の方法について説明する。</li> </ul>
まとめ(5分)	<p>7. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ワークシートに本時の学習の振り返りを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で調べたことや他の班の発表を聞いて考えたことをふまえて記入させる。</li> </ul>

(4) ワークシート

8. 保健制度とその活用 ①

2年 組 番 氏名

がん検診をすすめるポスターを作成しよう

【学習内容①】  
○益田市のがんやがん検診の状況を知り、課題を考えよう。

【がんについて】  
MEMO:

Point: 癌年変化は…、他の市・県との違いは…、他のがんと比較すると…、年齢での違いは…

【益田市の問題点の整理】  
分析したデータをみんなに説明すると：

【ポスター作製のターゲット】  
誰を対象に、何のがん検診をすすめるポスターにするか：

誰：  
どのがん：

がん検診をすすめるポスターを作成しよう

【学習内容①】  
○益田市のがんやがん検診の状況を知り、課題を考えよう。

【がんについて】  
MEMO:

がんの名称	特徴など
胃がん	・人口比率の増加が傾向にみられていると考えられている。 ・運動不足や肥満、大腸の癌などが高発症に原因している。
大腸がん	・癌が重では乳に癌発が最も多く、特に男性に多い。 ・癌の発症は増加しており、たばこを吸う人の割合にかかると、男性は、女性では乳がんの割合にもなる。
肺がん	・主な原因はタバコとびり煙の肝臓ウイルスの感染である。 ・大腸の癌並の発症率も、肝臓がんになるまで行かぬ。
肝臓がん	

がんの名称	特徴など
乳がん	・乳癌はがんのなかの最も多いがんである。 ・しこりや乳房のくぼみなどの腫瘍を触れることが特徴。
子宮頸がん	・子宮のがんには、子宮の入り口(頸部)にあるもの、子宮体(体部)にあるものがある。 ・頸部にあるものは、初期の段階では痛みがないことが多い。特に気づかなくても、20歳を過ぎたら、2年に1回子宮頸がんの検診を受けることが勧められている。
前立腺がん	・前立腺がんは男性に多く、前立腺がんは進行し、かなり悪化した場合でも適切に対処すれば、通常の生活を長く続けることができる。

主ながんの種類と特徴など



## 第 3 章 資料編

\*このアンケートは、がん教育の実施前後で行うことで、がん教育の評価として御活用いただけます。

### がんの学習アンケート(例)

年 氏名

	質問 1	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。				
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。				

	質問 2	正しい	間違い
a	がんは誰もがかかる可能性のある病気である。		
b	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。		
c	がんは日本人の死因の第2位である。		
d	たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。		
e	早期発見すれば、がんは治りやすい。		
f	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。		
g	がんの治療法には手術治療しかない。		
h	がんの痛みは我慢するしかない。		

	質問 3	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
a	自分はがんにならないと思う。				
b	将来、たばこは吸わないでいようと思う。				
c	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。				
d	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。				
e	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。				
f	がんになっても生活の質を高めることができる。				
g	がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。				
h	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。				
i	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。				
j	長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。				

# 島根県のがん登録2017年(平成29年)集計

すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指すために

みるにゃ

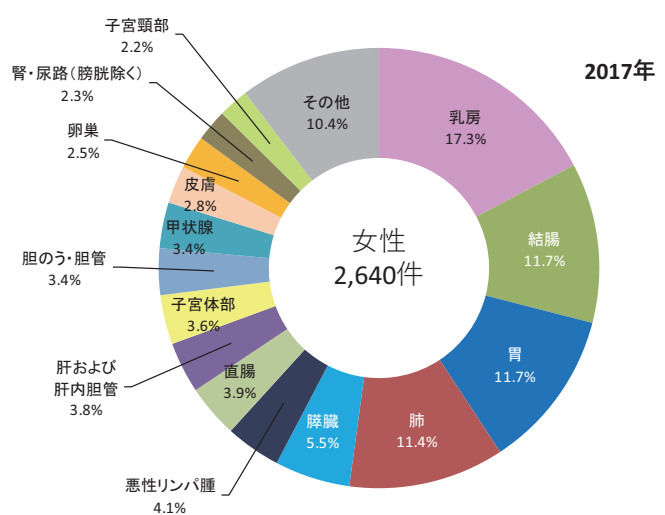
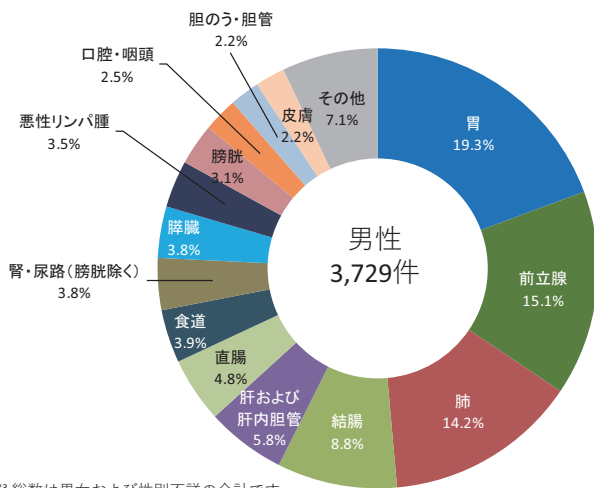
がん対策を推進していくためには、がんの発生動向を的確に把握することが大切です。そのため、島根県では全国がん登録により収集された島根県のがん登録データを分析し、県民をはじめがん医療に関係する皆様に情報提供することで、皆様と一体となってがん対策に積極的に取り組んでまいります。



## 1、島根県でがんにかかった人の数

2017年の島根県における上皮内がん\*1を除く罹患数は、男性3,729件、女性2,640件、総数\*3 6,369件でした。

部位別にみると、男性では胃がんが最も多く、次いで前立腺がん、肺がん、結腸がん、肝および肝内胆管がんが続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは4番目に多いです。女性では乳がんが最も多く、次いで、結腸がん、胃がん、肺がん、膵臓がんが続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは2番目に多いです。



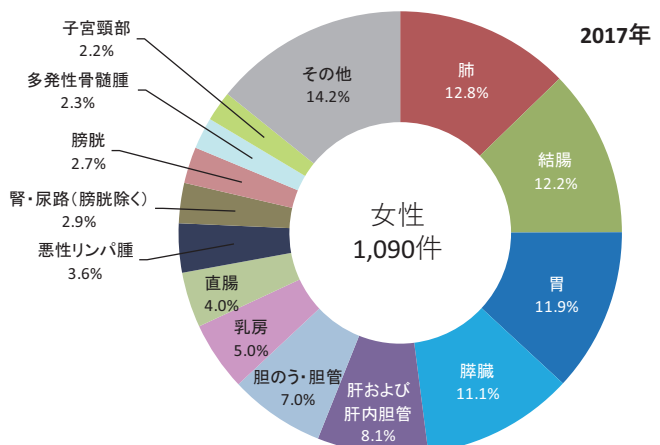
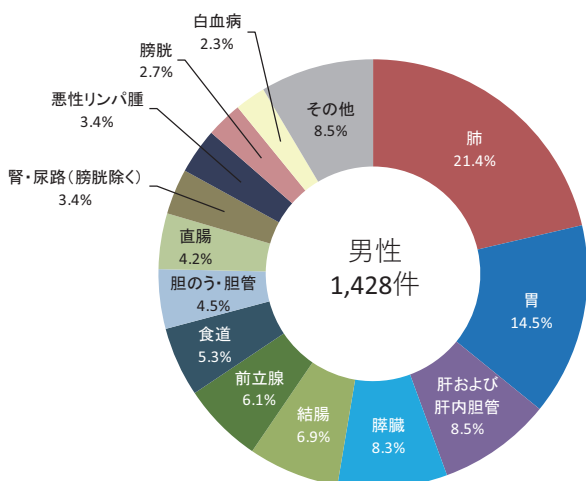
\*3 総数は男女および性別不詳の合計です

## 2、島根県でがんによりなくなった人の数

2017年の島根県でがんを原因とした死亡数は2,518人(男性1,428人、女性1,090人)でした。男性では肺がんによる死亡が最も多く、次に胃がん、肝および肝内胆管がん、膵臓がん、結腸がんが続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは3位です。

女性では肺がんによる死亡が最も多く、次に結腸がん、胃がん、膵臓がん、肝および肝内胆管がん、と続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは1位です。

罹患の比較的多い女性の乳がんの死亡数はそれほど多くないことがわかります。

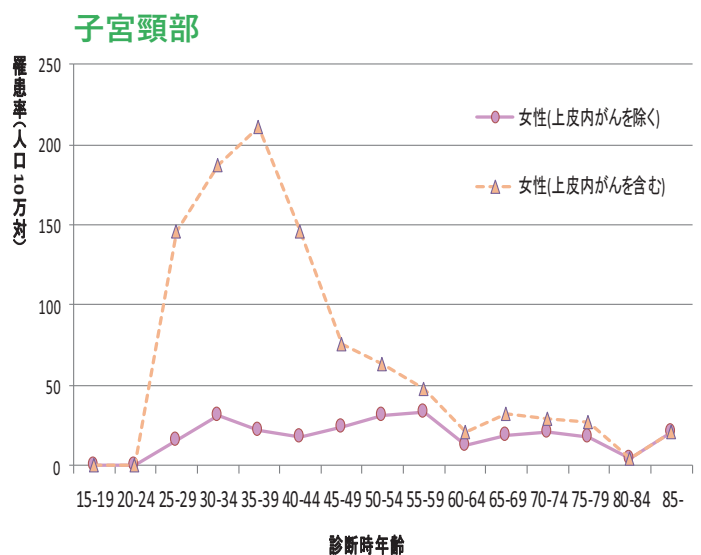
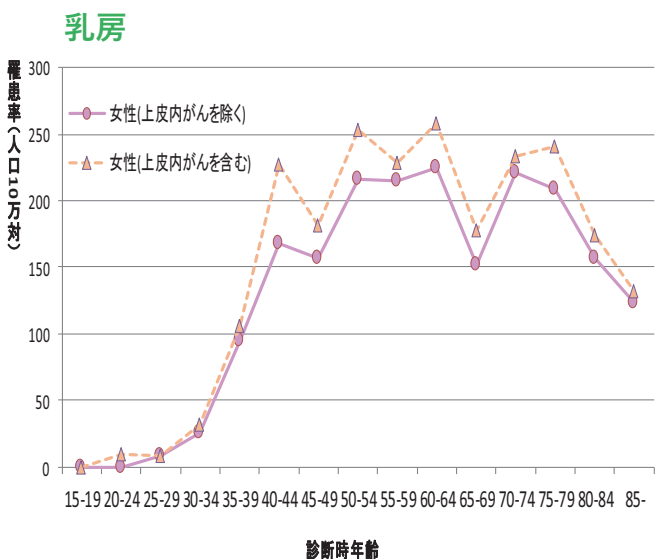
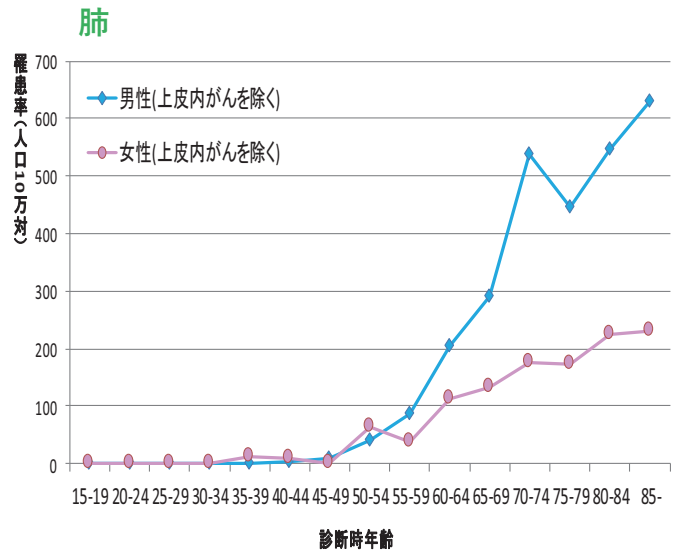
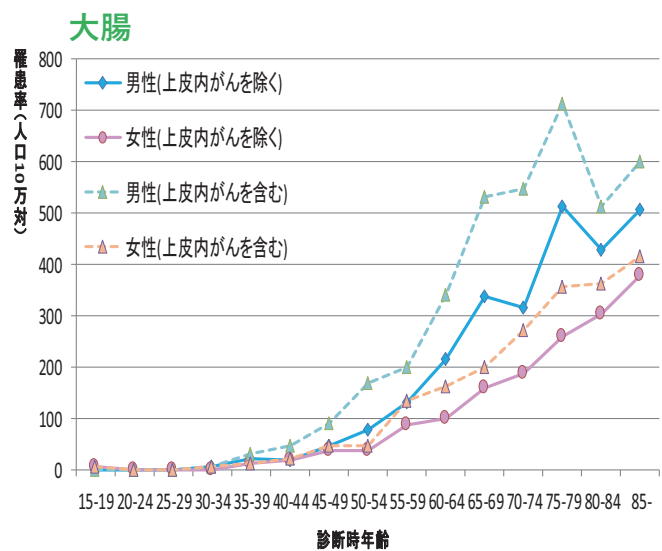
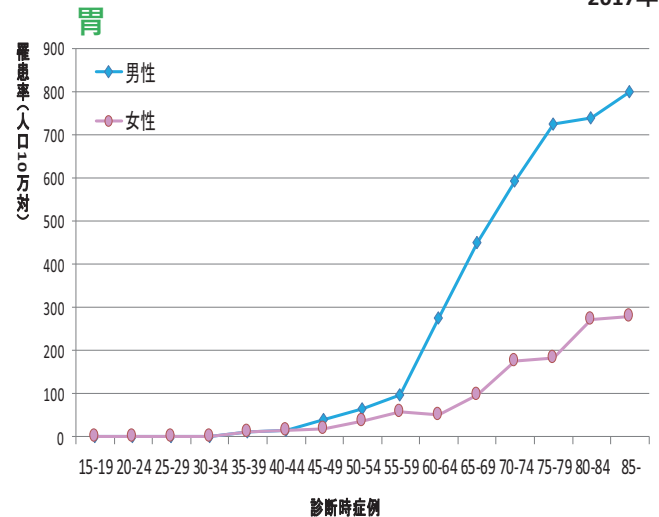
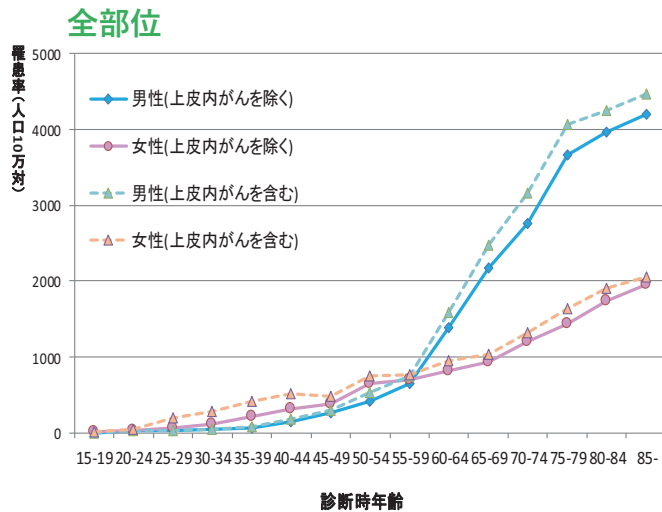


### 3、がんにかかりやすい年齢

全部位について島根県の性別年齢階級別にがん罹患率をみると、25歳から54歳では女性の罹患率が高いです。これらは、乳がん、子宮頸部がんが影響しています。55歳以上の年齢では男性の罹患率が女性より高くなっています。

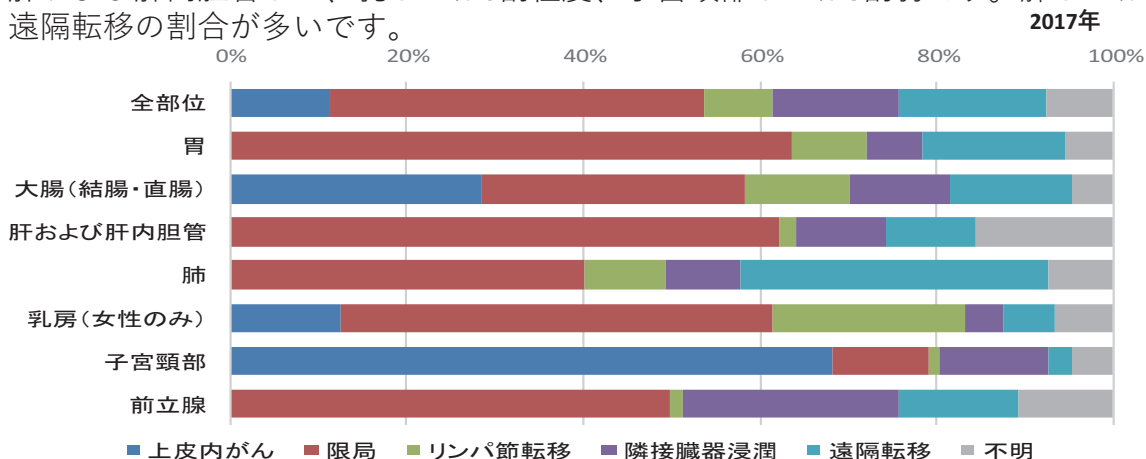
胃がん、大腸がん、肺がん、では年齢が高くなるにつれて罹患率が高くなっています。乳がん、子宮頸部がんでは年齢とともに一貫して罹患率が高くなるという傾向は見られません。乳がんの上皮内がん\*1を含めたがん罹患率は30歳代から罹患率が高くなります。子宮頸部がんの上皮内がん\*1を含めたがん罹患率は20歳代から罹患率が高くなり、35-39歳が最も多いです。

2017年



#### 4、がんの病巣のひろがり

診断時のがん病巣のひろがりを見ると、部位によって進行の程度が異なることが分かります。主ながんで診断時に上皮内、限局にとどまっている割合をみると、胃がん、大腸がん、肝および肝内胆管がん、乳がんは6割程度、子宮頸部がんは8割弱です。肺がんは、診断時に遠隔転移の割合が多いです。

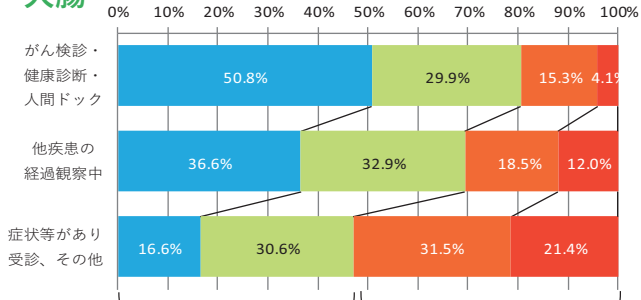


#### 5、がんの発見経緯と病巣のひろがり

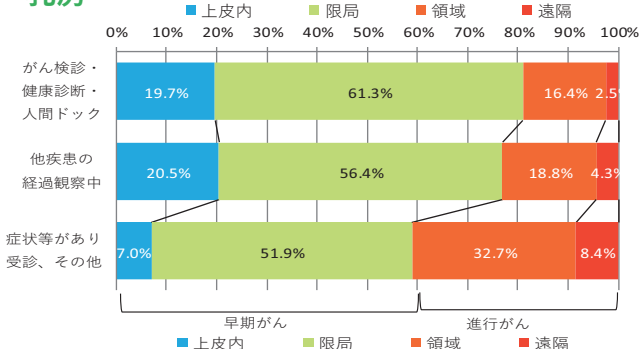
がんの発見経緯とがん病巣のひろがりを見ると、どの部位でもがん健診・健康診断・人間ドックで発見された場合は、症状等があって受診された場合より早期にみつかることがわかります。

がんの初期には症状が出ないことが多いので、がん検診を積極的に受診しましょう。

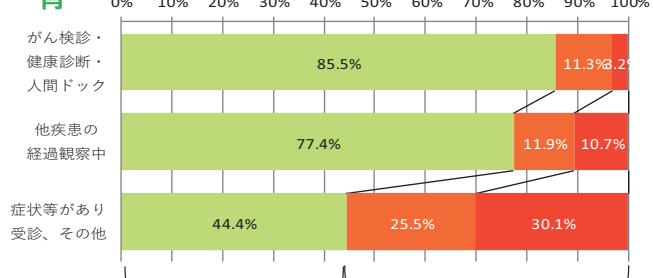
##### 大腸



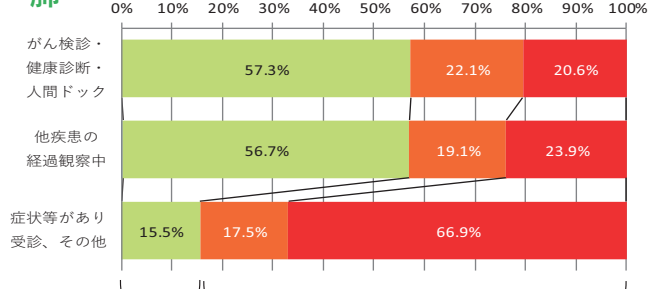
##### 乳房



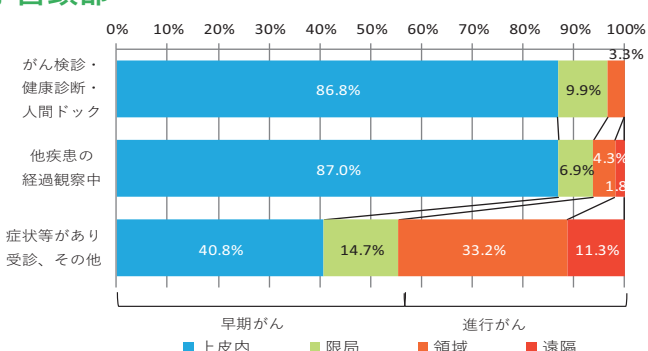
##### 胃



##### 肺

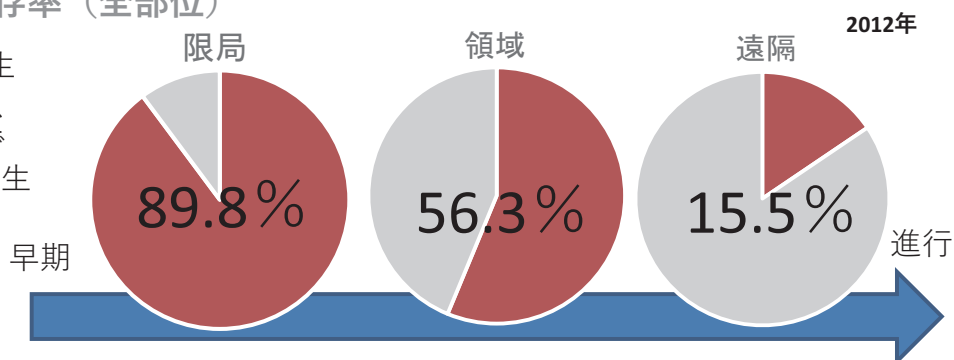


##### 子宮頸部



#### 6、病巣のひろがりと5年生存率 (全部位)

病巣のひろがり別に5年生存率をみると、限局89.8%、領域56.3%、遠隔15.5%です。早期で発見されるほど生存率は高くなります。

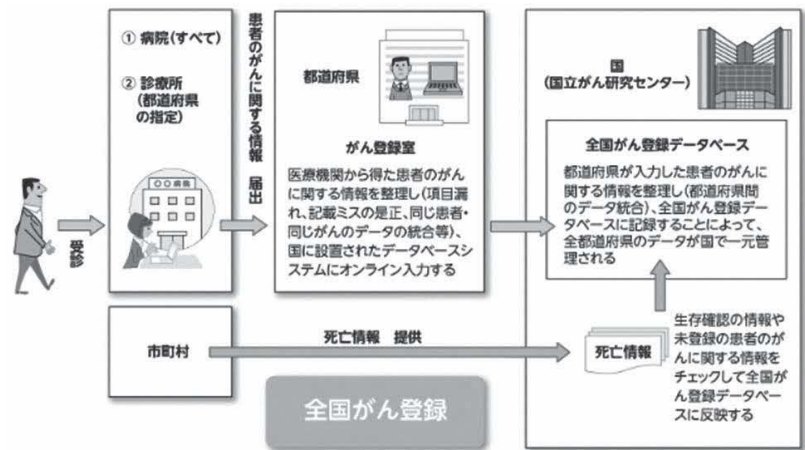




## 7、がん登録と個人情報の保護

がん登録は病院や指定診療所から患者さんの診断や治療の情報を収集することで成り立っています。このため、患者さん個人の特定につながる情報の安全管理に配慮して、情報の収集、保管、活用を行っています。

がん登録等の推進に関する法律では、全国がん登録の業務に従事する者の秘密漏示等の罰則規定が定められており、島根県でも、全国がん登録における個人情報保護のための安全管理措置マニュアルに従って全国がん登録島根県がん情報管理要領を定めて、適正に管理を行っています。



## 8、がん登録データの活用

本リーフレットは、全国がん登録の島根県版がん登録報告書の抜粋ですので、報告書全体については下記の島根県ホームページからご覧いただけます。

報告書に掲載されていないデータについては、がん登録等の推進に関する法律に基づき活用していただくため、全国がん登録における島根県がん情報等の提供に関する事務処理要領を定めております。市町村、病院等、ならびにがんに係る調査研究を行う方は島根県ホームページをご確認のうえ、島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室までお問合せください。



島根県のがん登録 🔍



<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/kenko/gan/gantouroku-data/gantouroku.html?site=sp>

- \*1 上皮内 : 上皮内にとどまって浸潤していない
- 限局 : がんが原発臓器に限局している
- リンパ節転移 : 領域リンパ節への転移を伴うが、隣接組織、臓器への浸潤がない
- 隣接臓器浸潤 : 隣接組織、臓器に直接浸潤しているが、遠隔転移がない
- 遠隔転移 : 遠隔転移がある
- \*2 領域とは、領域リンパ節転移と隣接臓器浸潤を含む

2021 (令和3) 年 2 月 発行  
 編集 島根県がん診療ネットワーク協議会  
 発行 島根県健康福祉部健康推進課  
 〒690-8501島根県松江市殿町1番地  
 tel (0852) 22-6701 fax (0852) -22-6328



健康長寿しまね  
 マスコットキャラクター  
 「まめなくん」

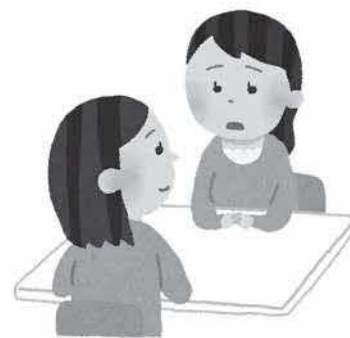
## 県内相談窓口の一覧

### がん相談支援センター

がん相談支援センターは、患者さんやご家族、地域の方々にご利用いただけるように、専門の相談員が、がんに関する情報を提供するなど、がんの治療や療養生活全般のさまざまな相談にお応えしています。相談は無料で、その病院にかかっていなくても、相談することができます。

たとえば、こんなときには、がん相談支援センターにご相談ください。

- ・がんのこと治療のことなど、一般的な情報を知りたいとき
- ・医療費や社会保障制度について知りたいとき
- ・がんの診断に伴う不安や気がかりについて話がしたいとき
- ・治療中の学業や仕事、生活に不安があるとき
- ・セカンドオピニオンを受けたいとき
- ・緩和ケアについて知りたいとき



医療機関名	電話番号	相談時間
島根大学医学部附属病院	0853-20-2518	平日(月~金) 8:30~17:00
松江市立病院	0852-60-8083	平日(月~金) 8:30~17:00
松江赤十字病院	0852-32-6901	平日(月~金) 8:20~16:50
島根県立中央病院	0853-30-6500	平日(月~金) 8:30~17:15
浜田医療センター	0855-28-7096	平日(月~金) 9:00~17:00
益田赤十字病院	0856-22-1480	平日(月~金) 8:30~17:00

出典：文部科学省

## 中学校・高等学校版

# がん教育プログラム

### 補助教材 一部抜粋

本プログラムは健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者やその家族など、がんに向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図ることを目的としています。

#### 本教材を活用するに当たっての留意事項

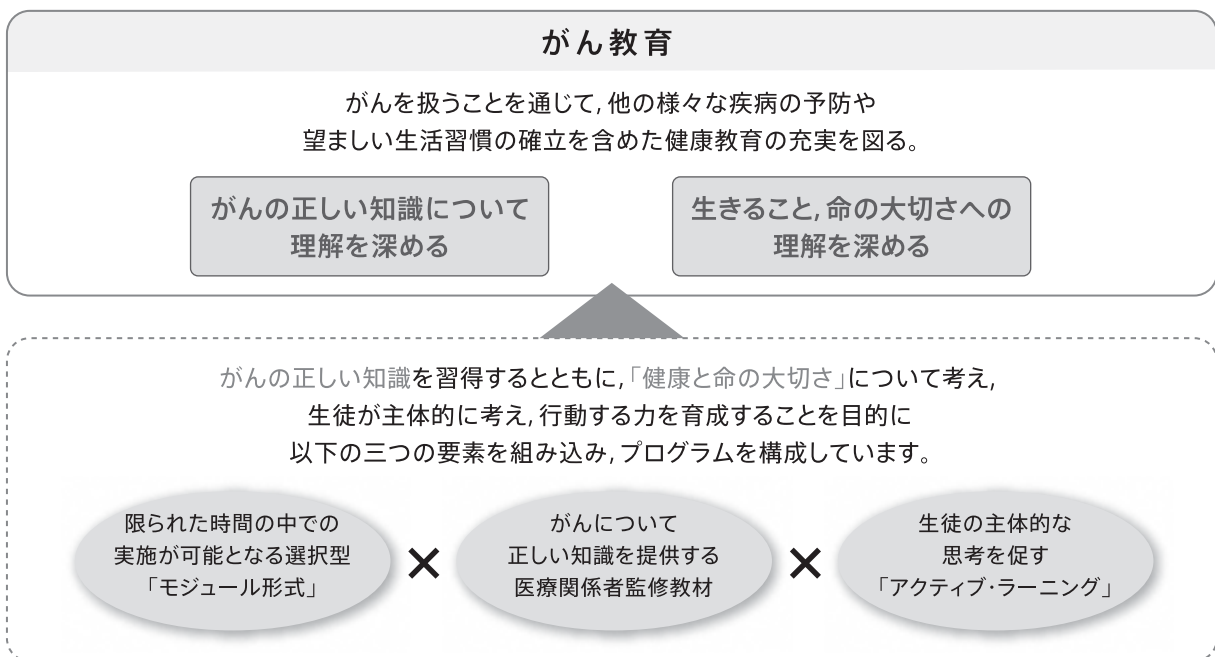
命についての授業になります。生徒の家庭状況や心理面についての配慮が必要です。  
本誌P.5の留意事項を、必ず御確認ください。

日本人の死因の第1位はがんです。三割近くの方ががんで亡くなっています。そして、日本人の二人に一人は、一生のうちに何らかのがんになると推計されています。がんは、命にかかわる病気ですが、現在では、早期に発見し、適切に治療をすれば、治らない病気ではなくなってきました。日本の未来を担う子供たちに、がんの正しい知識や、生きること、命の大切さを理解してほしいと願っています。

## プログラムのねらいと特長

がんをテーマとして教育で扱う際に大切なことは、「生きている限り誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか」という正解が一つではない問を通して、「自分らしい生き方」や「健康と命の大切さ」について考えることです。

そのため、本プログラムでは、がんに対する正しい知識の習得とともに、生徒が主体的に考え、行動につなげられるような内容を目指し作成しています。



## 提供教材

全9モジュール分の教材を用意しています。学校での授業のねらいに合わせて自由にアレンジして御活用ください。

### スライド教材



全9モジュール分のスライドを用意しています。

### 補助教材



各モジュールのねらい・授業進行の方法など紹介しています。

### 映像教材(小学生向け)



小学生向けには映像教材を用意しています。必要に応じて御活用ください。(詳細P.17)

## プログラム概要

本プログラムは文部科学省「がん教育推進のための教材」に基づき、九つのモジュールを選択して学習いただけます。また、中学校・高等学校で活用いただきやすいよう、1モジュール15分程度で構成しています。学校のねらいに合わせ、必要なモジュールを選択し、組合わせて御活用ください。

※プログラムは教員が活用できるように作成していますが、学校の実情に合わせ、学校医やがんの専門医、がん患者など、外部講師の参加・協力によって一層学習が深まります。(P.3を参照ください)

**対象学年** 中学校・高等学校 **関連教科等** 保健、道徳、総合的な学習(探究)の時間、特別活動など  
いずれのモジュールも15分程度で実施いただけます。

	モジュールタイトル	概要	ページ
1	がんという病気	がんとは体の中で異常細胞が際限なく増えてしまう病気である。がんは一部遺伝要因はあるが、誤った生活習慣により、なる危険性が増す。	P.6
2	日本のがんの現状	がんは日本人の死因の第1位で、二人に一人はがんになる可能性がある。がんは細胞分裂の際に発生するため、加齢にともないがんになる人が増え、誰でもなりうる病気である。	P.7
3	がんの発生と進行	がんは発生から自覚症状が出るまでの期間が長いため、早期に発見するためには、症状がなくても検診を受けることが重要である。	P.8
4	がんの予防	がんになる危険性を減らすための工夫としては、たばこを吸わない、ほかの人のたばこの煙を避ける、バランスのとれた食事や適度な運動、定期的ながん検診などが重要である。	P.9
5	検診の意味	がんになった場合、早期がんに関しては約9割の人が治る。早期に発見するためには、症状がなくても定期的に検診を受けることが重要である。	P.10
6	がんの治療で大切なこと	がん治療には三つの柱(手術療法、放射線療法、化学療法)があり、がんの種類と進行度に応じて単独や、組み合わせて行われているが、医師と相談しながら主体的に選択することが重要である。	P.11
7	がん治療の支援	がんの支援には、病気に伴う体と心の痛みやつらさを和らげる緩和ケアがあり、終末期だけでなく、がんと診断された時から受けるものである。	P.12
8	がん患者の思い	がんの治療は、単に病気を治すだけでなく、治療中、治療後の“生活の質”を大切に、がんになってもその人らしく、充実した生き方をすることが重要である。	P.13
9	がん患者と共に生きる社会	がん患者は増加しているが、生存率が高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人々と社会生活を行っていく中で、がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしていくことが大切である。	P.14

ねらいに合わせたモジュールの組合せ例を紹介しています。

 P.18

本モジュールでは、「がん」のしくみや、原因を知ることを通して、生活習慣に配慮することでがんになるリスクを減らすことができることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
5分	<p>1. スライドを用い、がんにどのようなイメージをもっているかを確認する。</p> <p>2. がんのしくみを理解する。</p> <p><b>？ 問いかけ</b></p> <p>健康な体がどうなることを“がん”というのだろうか？</p> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声：できもができるのでは、食べ物が食べられなくなる など</p> <p>②スライドを用いて、がんは細胞が悪性化したものであることを知る。</p>	<p>※がんについて「怖い」などのイメージでしか捉えられていないことに気付かせ、がんへの正しい知識や理解への興味・関心を高めます。</p>
5分	<p>3. がんの原因について知る。</p> <p><b>？ 問いかけ</b></p> <p>がんの原因は何だろうか？</p> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声：遺伝ではないか、食べ物のせいではないか、運動不足ではないか など</p> <p>②男女別のがんの主な原因のグラフを見て、がんの原因は大きく分けて三つに分類できることを理解する。</p> <p>③高齢化も原因の一つであること、つまり誰もがなりうる病気であることを知る。</p> <p>④がんは原因のわかるものとわからないものがあることに気付く。</p>	<p>※小児がんなど、生活習慣とは関連のないものもあるため、誤解がないようにします。</p>
4分	<p>4. 自分に今できることを考える。</p> <p><b>？ 問いかけ</b></p> <p>がんになるリスクを減らすことはできるのだろうか？</p> <p>・がんの原因の中から、「生活習慣」については、自分たちにできることを確認し、どんな生活をすればよいか自由に発言する。</p>	
1分	5. モジュール1を振り返る。	

<スライド一覧> 全15枚



本モジュールでは、日本の「がん」の現状や、高齢化の現状を理解することを通して、がんは誰にでもなりうる病気であることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
14分	<p>1. スライドを用い、がんにどのようなイメージをもっているかを確認する。</p> <p>2. 日本のがんの現状を理解する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>？ 問いかけ</b> 日本ではどれくらいの人のがんになっているのだろう？</p> </div> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声:100人に1人くらいじゃないか など</p> <p>②スライドを用いて、がんになる人は二人に一人、亡くなる人は三人に一人である現状を理解する。</p> <p>③がんは細胞が分裂するときに変異し悪性化したものであることを振り返る。</p> <p>④スライドを用いて、日本の平均寿命が年々延びていることに気付く。</p> <p>⑤がんは細胞分裂のときに変異し悪性化したものであることから、長生きすれば細胞の変異の可能性が高まること、また、加齢により細胞を正常に保つ働きが低下し始めることを知る。 ⇒がんは誰もがなりうる病気</p> <p>⑥参考情報として、子宮頸がんや乳がんが多い20歳代から50歳代前半までは、がんの罹患率は女性が男性よりやや高く、60歳代以降は男性が女性より顕著に高くなっていることなどを知る。</p>	<p>※がんについて「怖い」などのイメージでしか捉えられていないことに気付かせ、がんへの正しい知識や理解への興味・関心を高めます。</p> <p>※本モジュールでは左記内容を提示していますが、口頭などで、「平均寿命が延びてがんになる可能性が高まっているからこそ、若い頃からがんの原因を排除したり、早めにがんを見つけて治療することが必要だよね」など予防や治療について触れてもよいでしょう。</p>
1分	3. モジュール2を振り返る。	

<スライド一覧> 全12枚

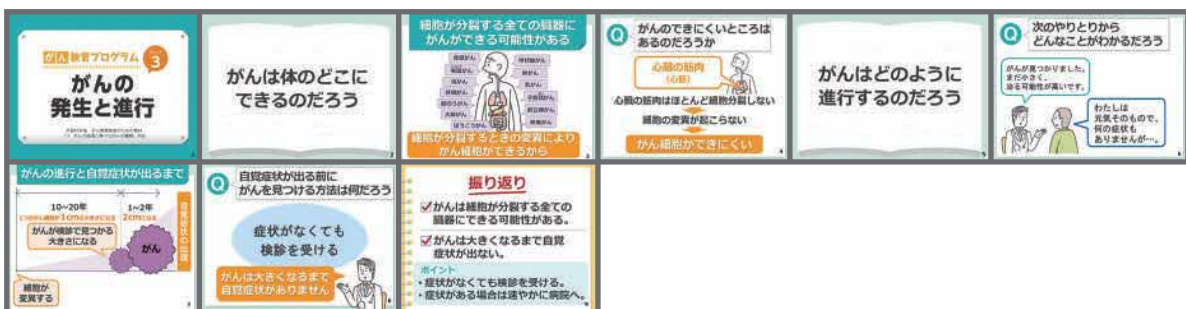


本モジュールでは、がんは発生から自覚症状が出るまでの期間が長いことを知ることを通して、症状がなくても検診を受けることの重要性について学びます。

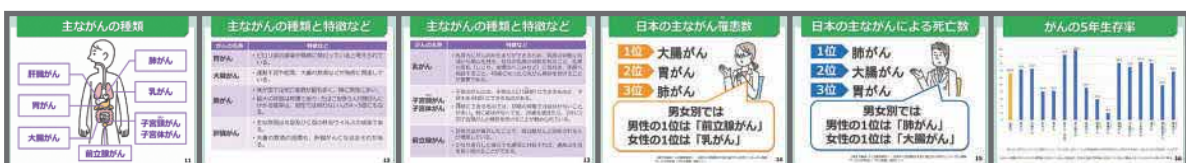
<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
7分	<p>1.がんは体のいたるところにできる可能性があることを知る。</p> <p><b>？ 問いかけ</b> がんは体のどこにできるのだろう？</p> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声:胃がんで胃になるがんのことだね、大腸、肺、体のいろいろなところなど</p> <p>②スライドを用いて、がんは細胞分裂の変異によるものなので、体のいたるところにできる可能性があることを知る。</p>	<p>※参考情報として、心臓の筋肉にはできにくいこと、できる場所などによって見付きやすさが違うことを伝えます。</p>
7分	<p>2.がんは自覚症状が出るまでの期間が非常に長いことを知り、自覚症状がなくても検査に行くことが必要であることを確認する。</p> <p><b>？ 問いかけ</b> がんはどのように進行するのだろうか？</p> <p>①【ワーク】スライドをもとに、がん検診で小さながんが発見された場合、患者のセリフからわかることは何か考える。 予想される生徒の声:がんが小さいときは症状がない、がんだとわからないまま診察されることがある など</p> <p>②がんは自覚症状が出るまで10～20年かかることもあることに気付く。</p> <p>③自覚症状が出る前がんを見付ける方法を考え、定期的に検診を受け、早めに発見することが大切であることを理解する。</p>	<p>※モジュール5で「検診の意味」について取り扱います。関連付けて御活用ください。</p>
1分	3.モジュール3を振り返る。	

<スライド一覧> 全9枚



<資料スライド> 本モジュールに関連した情報となります。必要に応じて御活用ください。





本モジュールでは、がんの原因について振り返り、自分たちが気を付けることで、がんのリスクを軽減することができることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
12分	<p>1. がんにならないために自分ができることを知る。</p> <p><b>？ 問いかけ</b> がんにならないためにできることは何だろう？</p> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声: たばこを吸わないこと, 好き嫌いせずにバランスのよいものを食べる など</p> <p>②スライドを用いて、男女別のがんの原因を確認し、がんの主な原因は三つに分類できるが、その中で「生活習慣」については自分で気を付けることができることに気付く。</p> <p>③【ワーク】どのような生活を送ればよいか、発言する。 予想される生徒の声: 早く寝る, 栄養のあるものを食べる, 運動する など</p> <p>④禁煙や節酒など望ましい生活習慣が大切であることを理解する。</p> <p>⑤【ワーク】望ましい生活習慣が大切だとわかっていても、忙しさなどを理由にそのような生活を送らない人に対して、どうアドバイスをすればよいか考え、グループでロールプレイを行う。</p> <p>⑥スライドを用いて、アドバイス例を伝え、身近な人に伝えていくことが大切であることに気付く。</p> <p>⑦がんの原因にはわかっていないものもあるため、がん検診を受けたり、感染対策を講じたりすることが大切であることを伝える。</p>	<p>※がんには原因がわかっていないものもあることをおさえましょう。</p> <p>※時間があれば保健体育の教科書などを使用し、健康的な生活習慣についてグループで調べ学習を行ってもよいでしょう。</p> <p>※このワークの登場人物は、生徒の保護者世代を想定しています。それにより、自身の保護者にどのようにアドバイスをすればよいかを考えるきっかけとします。</p>
2分	<p>2. 大切な人ががんにならないためのメッセージを考える。</p> <p><b>？ 問いかけ</b> あなたの大切な人ががんにならないためのメッセージを考えよう</p> <p>※ここは自宅での宿題にすることも考えられる。 (もし時間に余裕があれば、個人で考え、手紙を書くなどの時間をとり、対象の方へそのメッセージを渡すように促す。)</p>	
1分	3. モジュール4を振り返る。	

<スライド一覧> 全13枚

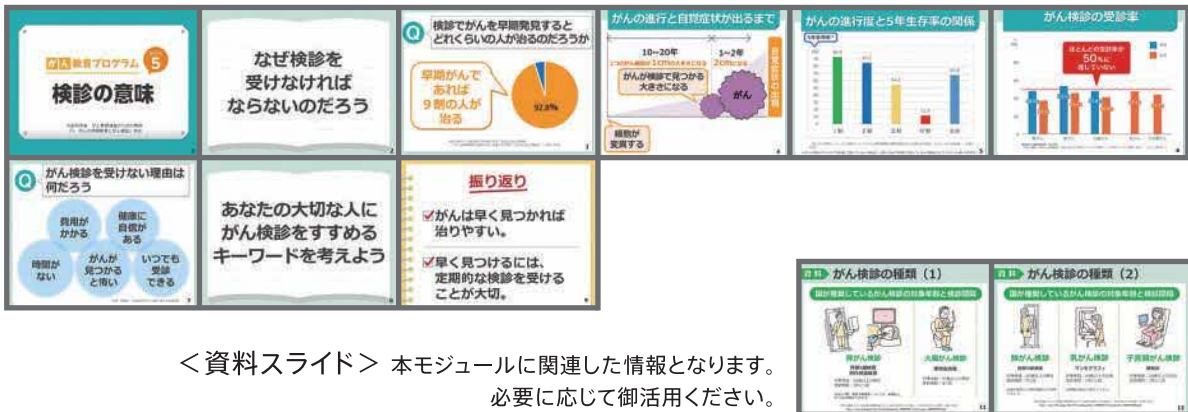


本モジュールでは、早期発見により約9割の人が治ることを知り、がん検診を受けることの大切さについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
12分	<p>1.がん検診の有効性と、日本での受診率の現状について知る。</p> <p>①がん検診について知っていることを発言させたあと、国が推奨しているがん検診の説明を聞き、さまざまな検診を推奨していることを知る。</p> <p>❓ 問いかけ なぜ検診を受けなければならないのだろう？</p> <p>②自由に発言させる。 予想される生徒の声:早く見付かったほうがいいと思うから、検診でがんが見つかることがあるから など</p> <p>③スライドを用いて、検診でがんを早期発見すれば、がんの種類によっては、約9割の人が治る可能性があるといわれていること、自覚症状が現れるまでに10年以上かかることがあることに気づき、検診の有効性について理解する。</p> <p>④がん検診の受診率は50%に達していない事実を知る。</p> <p>⑤【ワーク】なぜ、がん検診の受診率が約50%程度だと思うかをペアまたはグループで話し合い、発表する。</p> <p>⑥スライドを用いて、がん検診を受けない人の声を知り、自分の大切な人にどう伝え、どう働きかけたらよいか考える。</p>	<p>※資料スライドに「がん検診の種類」を入れてるので必要に応じて御活用ください。</p> <p>※検診で見つかるがんは早期発見の場合が多く、がんが治る可能性も高くなるなど、がんについて正しく理解し、多くの人々が積極的にがん検診を受けることが望まれていることを伝えましょう。</p>
2分	<p>2.大切な人にごがん検診をすすめるキーワードを考える。</p> <p>❓ 問いかけ あなたの大切な人にごがん検診をすすめるキーワードを考えよう</p> <p>※ここは自宅での宿題とすることも考えられる。 (もし時間に余裕があれば、個人で考え、手紙を書くなどの時間をとり、対象の方へそのメッセージを渡すように促す。)</p>	
1分	3.モジュール5を振り返る。	

<スライド一覧> 全9枚



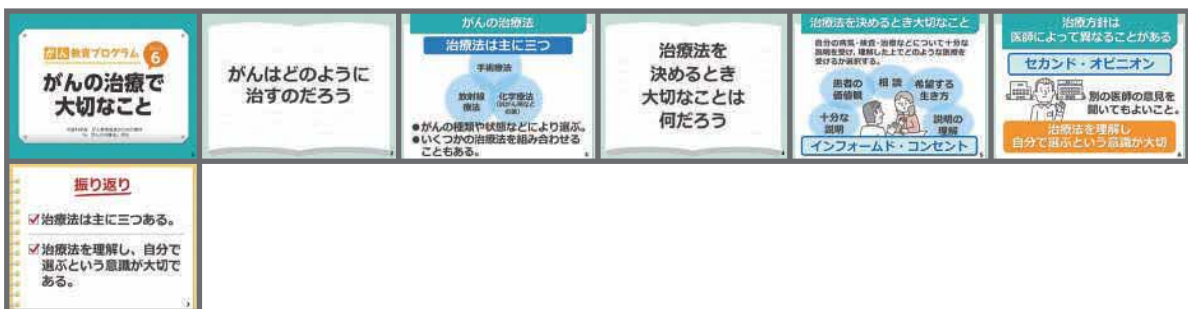
<資料スライド> 本モジュールに関連した情報となります。必要に応じて御活用ください。

本モジュールでは、がんの治療法について知り、がん治療においてそれぞれの治療法を理解し、自分で納得して選択する(決める)ことの大切さについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
6分	<p>1.がんの治療法について知る。</p> <p><b>?</b> 問いかけ がんはどのように治すのだろう？</p> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声:手術じゃないかな,薬で治すと思う など</p> <p>②がんの治療法は主に三つあり,がんの種類や状態によって選ぶこと,いくつかの治療法を組み合わせることもあることを理解する。</p>	<p>※がんの種類と進行度などを踏まえて,これらを単独あるいは組み合わせで行うことが,標準的な治療法として推奨されていることをおさえましょう。</p>
8分	<p>2.治療法は自分で納得して選択すること,そのためには十分な説明を受け,理解することが大切であることに気付く。</p> <p><b>?</b> 問いかけ 治療法を決めるとき大切なことは何だろう？</p> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声:家族で話し合うことかな,自分が納得することじゃないか など</p> <p>②がんの治療は自分が後悔しないように,納得できるまで医師と十分に話し合い,最終的に自分で選択することが大切であることに気付く。</p> <p>③治療方針は医師によって異なることがあるため,別の医師に意見を聞いてよいことを伝え,自分が納得して選び,後悔のないよう決めることの重要性について考える。</p>	<p>※治療方針は医師によって異なる場合もあり,別の医師の意見を聞きたいときには,セカンド・オピニオンという仕組みを利用することを説明し,治療方法を自分で選択するという意識を持つことの大切さも伝えます。</p>
1分	3.モジュール6を振り返る。	

<スライド一覧> 全7枚



<資料スライド> 本モジュールに関連した情報となります。必要に応じて御活用ください。



本モジュールでは、がん治療は長期に渡ることが多いため、がん患者やその家族にさまざまな問題が生じていることを知り、それぞれの分野の専門家と、その人らしく生きるための支援が行われていることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
14分	<p>1.がんの治療に必要な支援と、その考え方について知る。</p> <p>①がんになるとどのような問題が起こると思うかを考え、長期にわたる治療により、さまざまな問題(苦痛やつらさ)が発生することを知る。</p> <p>②がんの治療中に支援が必要な人は誰かを考え、がん患者だけでなく、支える家族もさまざまな問題を抱えることを知り、がん治療に必要な支援とは何かについて気付く。</p> <p>? 問いかけ がん治療にはどのような支援が必要なのだろう?</p> <p>③自由に発言する。 予想される生徒の声:お金を貸してくれるところがあるよね、仕事を休んでもいいようにする など</p> <p>④スライドから、「体の痛み・つらさ」「心のつらさ」のそれぞれに専門家による支援があり、病気に伴う体と心の痛みを和らげる支援を緩和ケアと呼ぶことを理解する。</p> <p>? 問いかけ なぜ緩和ケアが必要なのだろう?</p> <p>⑤【ワーク】緩和ケアがあるときと、ないときの体や心の状態を想像し、緩和ケアがなぜ必要かについてグループで話し合い、発表する。</p> <p>⑥緩和ケアはがんと診断されたときから適切に行われるべきもの、そして単にがんを治すだけでなく、その人らしく生きるための支援であることを理解する。</p>	<p>※「問題」のイメージがわかりにくい場合は、「入院代はいくらくらいなのかな」など患者がどのようなことに不安を感じると思うかを想像させるとよいでしょう。</p>
1分	2.モジュール7を振り返る。	

<スライド一覧> 全14枚

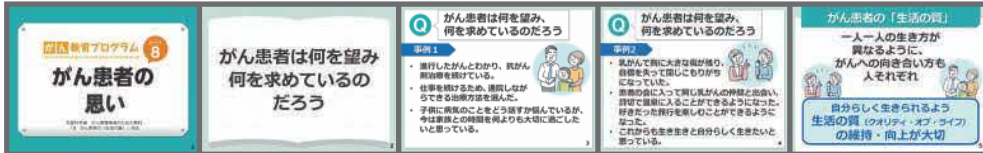


本モジュールでは、がんを経験した方の考えや思いを知り、がんの治療は、単に病気を治すだけでなく、治療中、治療後の“生活の質”を大切に、がんになってもその人らしく、充実した生き方ができることが重要であることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
14分	<p>1.がんの治療に必要な支援と、その考え方について知る。</p> <p><b>？ 問いかけ</b></p> <p>がん患者は何を望み何を求めているのだろうか？</p> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声:早く治ることだと思う, 家族にそばにいてほしい, 働きたい など</p> <p>②【ワーク】二人の事例を読み, がん患者が何を望み, 何を求めているかについて改めてグループで話し合い, 発表する。</p> <p>③がん患者一人一人, 背景や状況が異なるが, がんと共に歩む気持ちを持ち, 自分らしく生きようとする(生活の質「クオリティ・オブ・ライフ」の維持・向上)が大切であることを知る。</p>	<p>※がん経験者等の外部講師を活用し, 学習内容に応じて体験談を話してもらおうとよいでしょう。</p> <p>※掲載している事例以外にも, 二名のがん患者へのインタビュー映像も用意しています。それを視聴し, がん患者の思いや, がん患者が望むことについて話合ってもよいでしょう。</p>
1分	2.モジュール8を振り返る。	

<スライド一覧> 全5枚

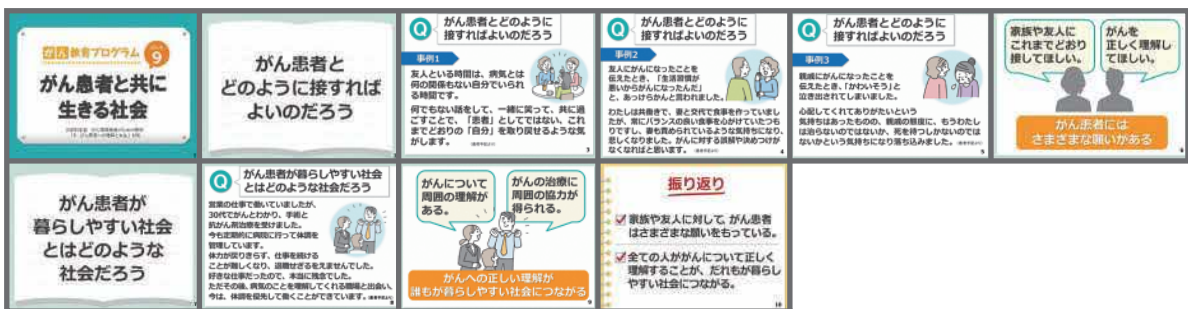


本モジュールでは、がん患者との共生に必要な視点や考え方を知り、がんについて正しく理解することで患者が暮らしやすい社会につながることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
7分	<p>1.がん患者との共生に必要なことについて知る。</p> <p><b>？ 問いかけ</b> がん患者とどのように接すればよいのだろうか？</p> <p>①自由に発言する。 予想される生徒の声:体調が悪そうだったら声をかける、普段どおりに接する など</p> <p>②事例を読み、どのように接すればよいと思うかを考え、発表する。 ※三つの事例を用意していますが、グループで分担する、選択して使用するなどアレンジしてください。</p> <p>③がん患者一人一人、背景や状況が異なるが、多くのがん患者は家族や友人にこれまでどおり接してほしいなど、さまざまな願いがあることを知る。</p>	<p>※がん経験者等の外部講師を活用し、学習内容に応じて体験談を話してもらおうとよいでしょう。</p> <p>※事例はあくまで一例であり、必ずしも全員ではないことを伝えたくて、だからこそコミュニケーションをとり、自分の身近な人が何を求めているかを知ることが大切であることを伝えましょう。</p>
7分	<p>2.がん患者が暮らしやすい社会にするためには、全ての人のがんについて正しく理解することが必要であることを知る。</p> <p><b>？ 問いかけ</b> がん患者が暮らしやすい社会とはどのような社会だろう？</p> <p>①自由に発言させる。 予想される生徒の声:病気になる前と同じような生活ができるような社会 など</p> <p>②【ワーク】事例を読み、どのような社会が暮らしやすい社会だと思うか、グループで話し合い、発表する。</p> <p>③がんへの正しい理解が、誰もが暮らしやすい社会につながることに気付く。</p>	<p>※時間に余裕がある場合は、そのような社会にするためには、私たちにできることは何だと思いかを考えさせてもよいでしょう。</p>
1分	3.モジュール9を振り返る。	

<スライド一覧> 全10枚



<資料スライド> 本モジュールに関連した情報となります。必要に応じて御活用ください。



## 参考情報

スライド教材の、ワークや事例を掲載しています。コピーして生徒に配付する、先生が作成されるワークシート等へ貼付するなど、アレンジして御活用ください。

### モジュール4

がんのリスクを軽減するためのアドバイスを考えよう。

生活習慣が  
がんの予防に大事と  
知っていますよ!

でも、体がじょうぶ  
だから気にしてません。  
忙しくて、それどころ  
じゃありませんよ…



Aさん(40歳)

<アドバイス>

### モジュール8

#### 事例1

進行したがんとわかり、  
抗がん剤治療を続けている。

仕事を続けるため、  
通院しながらできる治療法を選んだ。

子供に病気のことをどう話すか悩んでいるが、  
今は家族との時間を何よりも大切に過ごしたいと思っている。



#### 事例2

乳がんで胸に大きな  
傷が残り、自信を失って  
閉じこもりがちになっていた。

患者の会に入って同じ乳がんの仲間と出会い、  
貸切で温泉に入ることができるようになった。

好きだった旅行を楽しむことができるようになった。  
これからも生き生きと自分らしく生きたいと  
思っている。



モジュール9

事例1



友人という時間は、病気とは何の関係もない自分でいられる時間です。

何でも無い話をして、一緒に笑って、共に過ごすことで、「患者」としてではない、これまでどおりの「自分」を取り戻せるような気がします。

事例2



友人にがんになったことを伝えたとき、「生活習慣が悪いからがんになったんだ」と、あっけらかんと言われました。

わたしは共働きで、妻と交代で食事を作っていましたが、常にバランスの良い食事を心がけていたつもりですし、妻も責められているような気持ちになり、悲しくなりました。がんに対する誤解や決めつけがなくなればと思います。

事例3



親戚にがんになったことを伝えたとき、「かわいそう」と泣き出されてしまいました。

心配してくれてありがたいという気持ちはあったものの、親戚の態度に、もうわたしは治らないのではないかと、死を待つしかないのではないかとこの気持ちになり落ち込みました。

モジュール9

事例



営業の仕事で働いていましたが、30代でがんとわかり、手術と抗がん剤治療を受けました。

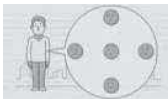







今も定期的に病院に行って体調を管理しています。

体力が戻りきらず、仕事を続けることが難しくなり、退職せざるをえませんでした。好きな仕事だったので、本当に残念でした。ただその後、病気のことを理解してくれる職場と出会い、今は、体調を優先して働くことができています。



小学校向けがん教育教材では、以下の内容の映像教材を提供しています。  
中学生、高校生でも参考にいただけますので、目的に応じて御活用ください。

映像教材① 「がん博士の『がんについての基礎知識』」(6分35秒)

  <p>だれもがなる可能性がある</p>	<p><b>質問① どうしてがんになるの？</b></p> <p>「どうしてがんになるのか」について、説明しよう。私たちの体は、たくさんの細胞できている。この細胞は、同じものをコピーしながら新しくなっていくんだけど、まれに、別の細胞ができてしまう。それが、がん細胞になることがあるんだ。がん細胞は、どんどん増えていく。そうすると、正しい細胞が正しく働かなくなってしまう。</p> <p>その病気のことをがんと言うんだ。私たちの体はたくさんの細胞からできているのだから、がんという病気は誰もがなる可能性がある病気なんだよ。</p>
 <p>生活習慣</p>  <p>予防 健康に良い生活習慣</p>	<p><b>質問② がんにならないためには、どうすればいいの？</b></p> <p>原因の一つには、たばこ。そして、お酒の飲みすぎ。さらに、生活習慣の乱れ。お肉を多く食べて、野菜はあまり食べなかったり、塩分を取りすぎたりしてしまうなど。また、運動不足や食べ過ぎによる太りすぎ、反対に、やせすぎもよくない。がんになる可能性が高くなってしまいます。</p> <p>がんの原因をつくらない予防のためにも、健康に良い生活習慣を送ることが大切だ。</p>
 <p>小さいうちに 見つける！</p>  <p>早期発見</p>	<p><b>質問③ がんは、なおすことができるの？</b></p> <p>がんがまだ小さいうちに治療すれば、ほとんどの人のがんを治すことができるようになったんだ。</p> <p>だから、小さいうちに、がんを見付けることが大切。でも困ったことに、がんが小さいうちは自覚症状がなくて、自分自身では気づきにくい。気づいたときにはすでにがんが大きくなってしまっていることが多いんだ。</p> <p>だから、「早期発見」と言って、できるだけ小さいうちに早く見付けることが大切なんだよ！</p>
 <p>早期発見 定期的な がん検診</p>  <p>健康が 大切</p>	<p><b>質問④ どうすればがんを早く見付けられるの？</b></p> <p>がんかどうかを調べるのは、まず、何の症状がなくてもお医者さんに定期的に診てもらおう、「がん検診」が必要なんだ。検診では、肺や胃など、体のそれぞれの場所に応じた検査をして、自分では気づかない小さな異常を見付けることができるんだ。</p> <p>がんは、早く見付ければ、ほとんどが治る可能性の高い病気。対策には、まず予防。健康に良い生活習慣。そして、もう一つが、早期発見のためのがん検診。この二つをよく覚えておいて、実行してほしい。そしてみんなの大切な家族にも、伝えてほしい。元気に毎日を過ごすためには、健康が大切。健康のためにできることを今から始めよう。</p>

映像教材② 「がんと生きる」

長谷川一男さんのエピソード (5分24秒)



がんとわかったときは、もう頭が真っ白ですね。当時、小学校2年生の息子と幼稚園年長の娘がいたので、子供にどう伝えればいいのか…。4日間一睡もしなかったのを覚えています。

自分が治療に向き合うきっかけとなったのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない。ゼロでないだったら戦うべきじゃないか。」という言葉。それから、子供たち、妻のためにも、納得いくまで先生と話し合っって治療法を決め、治療を進めていきました。

私が今、一番大切にしているのは、私が経験したことを、がんを患う人たちに共有していくことです。

みんなで話し合う場をつくって、病気に関する勉強会を開いています。そこに、先生を呼んで、相談しながら正しい情報を受け取り、情報発信をしています。みんなで励まし合う場をつくっているのです。

みなさんには、「病気になっても自分の人生なので後悔しないように生きる。」ということを強く伝えたいです。

自分の人生を大切に、後悔しない、そういう生き方をしてほしいと思っています。

倉本久恵さんのエピソード (5分03秒)



がんとわかったのは検診でした。とてもショックで、残してしまう家族への心配が一番大きかったです。でも、毎日のようにお見舞いに来てくれた家族の支えと励ましで、治療をがんばることができました。

今はパン屋で仕事をしています。毎日朝はすごく早いし、パン屋の仕事はすごく力を使う肉体労働ですが、やっぱり自分がやりたかった仕事に就けて本当に良かったと、毎日充実しています。

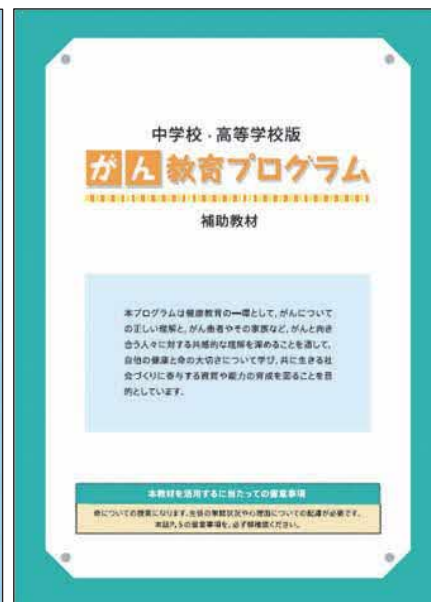
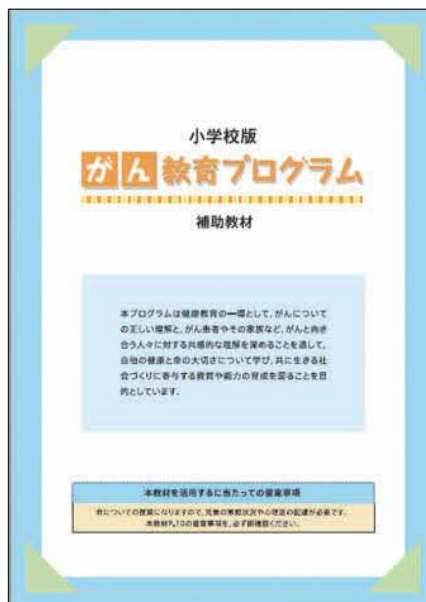
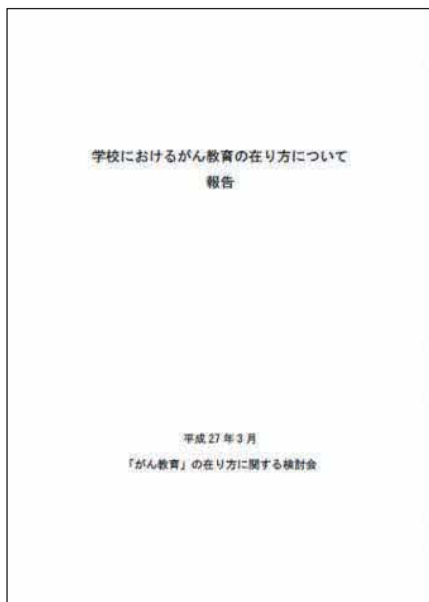
今、大切にしていることは、家族のためにバランスのよい食事を作って、家族が健康であるように努めることです。今まで心配をかけた分、家族には健康でいてほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っている時がとっても幸せです。

健康であれば自分の夢もかかないです。バランスのいい食事をとって、規則正しい生活をして、毎日過ごしてください。そして、家族を大切にしてほしいと思います。



文部科学省ホームページ

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1370005.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1370005.htm)



学校におけるがん教育の在り方について  
報告(平成27年3月)  
「がん教育」の在り方に関する検討会

小学校版／中学校・高等学校版  
がん教育プログラム補助教材



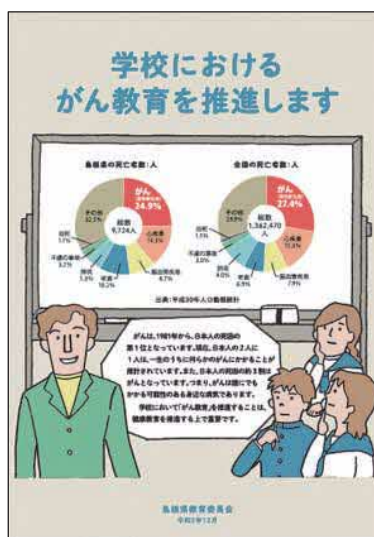
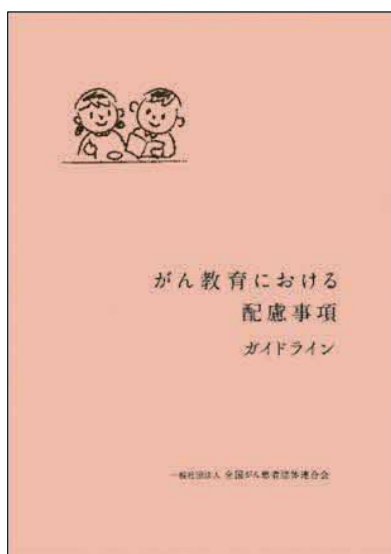
がん教育推進のための教材  
(平成28年4月)(平成29年6月一部改訂)  
(令和3年3月一部改訂)



外部講師を活用したがん教育ガイドライン  
(平成28年4月)(令和3年3月一部改訂)

- ・小学校学習指導要領(平成 29 年告示) 文部科学省
- ・中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 文部科学省
- ・高等学校学習指導要領(平成 30 年告示) 文部科学省
- ・小学校学習指導要領 解説 体育編(平成 29 年告示) 文部科学省
- ・中学校学習指導要領 解説 保健体育編(平成 29 年告示) 文部科学省
- ・高等学校学習指導要領 解説 保健体育編 体育編(平成 30 年告示) 文部科学省

その他



がん教育における配慮事項ガイドライン  
(令和2年2月)  
一般社団法人 全国がん患者団体連合会  
<http://zenganren.jp/wp-content/uploads/2020/01/784fefe55bfc40e42db9a41ab0998bf.pdf>

学校におけるがん教育を推進します  
啓発リーフレット (令和2年 12 月)  
島根県教育委員会(保健体育課)  
<https://www.pref.shimane.lg.jp/hokentaiku/kenkousuisin/index.data/gannkyo uikuwosuisinnsimasu.pdf>

□国立がん研究センター がん情報サービス  
<https://ganjoho.jp/public/index.html>



□一般社団法人 全国がん患者団体連合会  
[http://zenganren.jp/?page\\_id=1835](http://zenganren.jp/?page_id=1835)



□健康福祉部健康推進課 がん対策推進室  
<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/kenko/gan/>



□教育庁保健体育課 健康づくり推進室  
<https://www.pref.shimane.lg.jp/hokentaiku/kenkousuisin/>



〈がん教育モデル校〉

令和元年度

島根県立松江農林高等学校 吉岡正弘校長、内藤正洋教諭、野津道子教諭  
出雲市立河南中学校 大國哲也校長、松井貴教諭

令和2年度

島根県立益田高等学校 柿本章校長、中村展久教諭  
江津市立桜江中学校 根本登三男校長、黒木優教諭

〈がん教育協力校〉

令和3年度

島根県立益田高等学校 長岡正和校長、中村展久教諭  
出雲市立湖陵中学校 小豆澤巧校長、木下恵教諭

〈がん教育推進協議会委員〉

敬称略

	所属・役職	氏名
委員	島根県医師会学校医部会 部長	秦 正
	島根大学医学部 教授	竹谷 健
	松江市立病院緩和ケアセンター長	安部睦美
	島根大学教育学部 准教授	西村 覚
	島根県がんピアサポーター	若狭雅子
	島根県公立高等学校長協会代表(県立浜田高等学校校長)	熊谷修山
	島根県中学校長会代表(松江市立第三中学校校長)	成相僚一
	島根県養護教諭研究連絡協議会代表(松江市立竹矢小学校養護教諭)	宮永真美
	浜田教育事務所 指導主事兼企画幹	山岡修子
事務局	保健体育課長	舟木勝宏
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事兼企画幹	吉谷不美男
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事	諏訪部 淳
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事	角 一恵
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事	藤坂昌子
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事	岡崎綾子
	健康推進課がん対策推進室 主任技師	宇都宮拓也

文部科学省委託「がん教育総合支援事業」

「島根県学校におけるがん教育の手引」

発行年月 令和4年2月  
発行者 島根県教育委員会  
住所 〒690-8502  
島根県松江市殿町1番地  
電話 (0852)22-6145